

八丈島檜立方言の記述 (その2)

第2章 檜立方言の自然会話の一例

第3章 檜立方言の音声

青 柳 精 三

第2章 檜立方言の自然会話の一例

本章では、檜立の言語生活の現実態の1断面であるひとつの自然会話(MT会話と略称)がどのように展開されるかを示したいと思う。また、ロベ《フェニックス・ロベレニー》、ナベル《植える》、コシ《海岸へ落ちていく急斜面と崖》、ヒーローノクサ《牛の飼料となる雑草》、アッチャーガラ《あじさいの木》等、の八丈語特有の生活語詞が使用されている現実態をこの会話を通じて確認したいと思う。

この会話の収録状況については「フィールドの歩み」第5号、1974年、3~4頁に記してあるので以下に引用する。ただし、[]内は本書のために補足したもので原文には記されていない。

〔昭和47年〕10月11日 午前6時頃、〔檜立川城羅の民宿ゆとり荘〕の玄関前で〔民宿の主人〕奥山^{たかてる}和昭さん〔昭和4年生れ〕の声。〔青柳は〕テープレコーダーを持って飛び出す。近所の山本政三さん〔明治25年生まれ〕が寄られたのである。和昭さんは、私の録音がしやすいように、また長く話していってくれるようにという配慮から、玄関の上がりかまちに坐るよう政三さんを勧める一方、〔和昭氏夫人の〕栄子さんはお茶を出す。私〔=青柳〕も家に上り、二人の背後に控え、うなずきながら録音を続ける。

話の内容は、政三さんが、何年か前に〔=昭和20年秋頃〕山中〔=政三氏所有の切替畑〕でお骨を拾い、無縁仏として手厚く葬ってあるということである。そのお骨は、戦時中、檜立に滞在していた軍人のものであった。その軍人は上官に叱られ、それを苦に自殺したのだという。近く

その関係者が観光を兼ね供養に来島することになった、などと語られている。録音状態といい、話の内容といい、これ以上は望めない貴重な自然会話を録音できたことは、「ゆとり荘」の皆様の協力のお蔭であった。

今日は午前10時出航の船で離島することになっていたので、くわしく解説をして頂けなかったが、後日を期すことにする。政三さんには校名入りのタオルとお土産を〔和昭氏の母〕おなよしさんに届けて頂き、謝意を表した。政三さんは「録音していたとはちっとも知らなかった」と驚いておられたとのことだった。

録音時間は約20分。音声記号は片仮名表記に対応するように配置したので、分ち書きされていても実際の音声は切れ目なく続いている場合が多い。そのような箇所には = を記入し、音声連続に切れ目のないことを示す。音声全般の詳細については第3章を参照されたい。

T* ə̄ide =ora: #**sono=bo:jtoka' k'j̄uino=ɯ̄ɸandoɔmono =
 アイデ オラー、ソノ、ボーシトカー キルイノ ウグァンドァモノ
 それで それは、その、帽子とか 衣類の ようなもの (が)

sonomama odzari = [↑]ja?

ソノママ オジャリ ヤ。

そのまま ございましたか。

* **T**は奥山和昭氏 (昭和4年生まれ) **M**は山本政三氏 (明治25年生まれ)

** # はやや長い休止を示す。

M 'k'j̄uɯiwa nakkedoɔya =bo:jīga āɯu bo:jini'[a?] **saiΦɯ'ni:
 キルイワ ナッケドァガ ボーシガ アル*。ボーシニー サイフニー、
 衣類は ないが 帽子が あった。帽子に 財布に、

* アルは言い誤りではなく、過去を示す。アララと言ってもよい。

** [] 内は、言いかけ、どもり等。

fika.ia' t'abakono sūigakedaka =andaka =ɯ̄ɸandoɔmonoɸa=
 いカラー タバコノ スイガケダカ アンダカ ウグァンドァモノガ
 それから 煙草の 吸いかけたか なんだか、 あんなものが

aiɔɔ̄ =ɸe (o::ɸ)*

アロァ ガ。(オー)*

あった が。(ほほう)

* () は聞き手の相槌、短い反応を示す。

E* $\overline{\text{sono}} = \overline{\text{otjao}} = \overline{\text{agarina}\overline{\text{yara}}}$

ソノ オチャオ アガリナガラ。

その お茶を 上りながら。

* EはT氏夫人。昭和4年生まれ。大賀郷大里出身。

M $\overline{\text{dzuzsaya}} = \overline{\text{ka}} = \overline{\text{mitjke'te:}} \rightarrow \overline{\text{wa:ra}} \overline{\text{sojeya}} \overline{\text{tonajini}} =$

ジュンサガ クァ ミチケテー ワーラ ソレガ トナリニ

巡査が [私でなく] 見つけて。 私は それの 隣に

$= \overline{\text{ikuu.raka}} \overline{\text{u:eno}} = \overline{\text{danni}} = \overline{\text{aio}\overline{\alpha}} = \overline{\text{do}\overline{\alpha i,te:}} \rightarrow$

イクラカ ウエノ ダンニ アロァ ドァイテー。

いくらか 上の 段に いた んだから。

T $\text{a?} = \overline{\text{sono}} = \overline{\text{bo:ji}\overline{3ja:ya}} = \overline{\text{no:}} \rightarrow$

ア。 ソノ ボーシンシャーガ ノァ。

あつ。その 帽子などが ね?

M $\overline{\text{oi}} \overline{\text{anu}} \overline{\text{aki:}} = \overline{\text{tskka}\overline{\text{yatte}}} = \overline{\text{go:za}\overline{\text{jan}}_1 \overline{\text{nja:}}} \rightarrow \overline{\text{k}\overline{\text{okon}} \#}$

オイ。あヌ さキー ツッカガッテ ゴージャランニャー。ココン。

ああ。あの そこへ 登って 御覧になったら。ここに。

$\overline{\text{'so'no}} = \overline{\text{dzuzsawa}} = \overline{\text{doki:}} = \overline{\text{jat,t}\overline{\alpha}} = \overline{\text{kawa}} \rightarrow (\Delta: \overline{\text{son't}\overline{\text{ok'ino}}[\overline{\text{ço?}}]})$

ソーノ ジュンサワー ドキー ヤッタ カワー(あー) ソントキノ

その 巡査は どこへ やった かは、 その時の

$\overline{\text{k}\overline{\text{oto,a}}} \overline{\text{wa-rejoi}} = \overline{\text{h}\overline{\text{okan}}_2 \overline{\text{ja:}}} = \overline{\text{'da:emo}} \overline{\text{'mi:nna}} = \overline{\text{nakke}} = \overline{\text{za}} =$

コトア ワレヨリ ホカニャー ダーレモ ミーンナ ナッケ ジャ。

ことは 私より 他には 誰も みんな いない よ。

$\overline{\text{'nakke}} \overline{\text{do}\overline{\alpha i,te:}} \rightarrow \overline{\text{k}\overline{\text{okode}}} = \overline{\text{son'tjo:sanda.ia}} \dots\dots$ 不明……

ナッケドァイテー ココデ ソンチョーサンダラ……

いないのだから。 ここで 村長さんだ……

T $\overline{\text{ora:}} = \overline{\text{ju:sen,tj'okugode}} = \overline{\text{oz}\overline{\text{a}}_1 \overline{\text{annu}}} = \overline{\text{dza}} \rightarrow (\text{ja?})$

オラー シューセンチョクゴデ オジャランヌ ジャ。(ヤ)

それは 終戦直後で ございましょう ね。(え?)

ʃu:sentʃokugo seʒso:ya = owatte = sũɣu

シューセンチョコゴ。 センソーガ オワッテ スグ。
終戦直後? 戦争が 終って すぐ?

M o: = soʔandaɾannu: dʒa doʌya = haja = ukuniwa
オー, ソグワンダランヌー ジャ。 ドァガ ハラ ウクニワ
ああ, そうだろう ね。 だが もう あそこには

he:taiʃa:... ukūwa = dʒintʃidaɾoʌ = ʒa = no: = wɣaŋ
ヘータイシャー... ウクワ ジンチダロァ ジャ ノァ ウグァン。
兵隊たち あそこは 陣地だった ね, な, あのように?

T o: soʔande = oʒaɾannu: = wa nde = ora: minna =
オー。 ソガンデ オジャランヌー ワ。 ンデ オラー ミンナ
はい。 そのようで ございましょう。 それで それは みんな

sono? karadawa: honebakkarin = natte = oʒatta = ka?
ソノ カラダワー ホネバッカリン ナッテ オジャッタ カー。
その 体は 骨ばっかりに なって いました か?

M honebakkariite = noʌ doʌya kʌndoʌ ʃkwiʒʃa:ya =
ホネバッカリテ ノァ。 ドァガ クッドァ フクインシャーガ
骨ばっかりで ねえ。 だが こんな 服などが

ikuɾaka = honeni = kuttskimitte = aioʌya = noʌ
イクラカ ホネニ クツキミッテ アロァガ ノァ
いくらか 骨に あちこちくっついて いたが ね。

T e: əne nunokkireya = noʌ
アー。 あな スノッキレガ ノ
ああ。 あの 布切れが ね。

M doʌya = haja:? [go?] godʒu:nitʃi sũgitʌzo:te = ɨʃamo =
ドァガ ハラー ゴジューニチ スギトァゾーテ イシャモ
だが もう 50日 過ぎたとのことで, 医者も

o[~]ʒa.roʌ = do[~]i.te:
 オジャロァ ドイテー。
 おいでになったから。

T ʔa: ə = so[~]re = fi[~]ra[~]beni = no[~]ʌ↗
 アー。 あ ソレ シラベニ ノァ。
 ああ。 ア それ 調べに ね。

M o: = [i][jeː] = i[~]ʃa[~]ni: ʃi[~]ʃo:ʃo:ni i[~]ka[~]ra = k'e[~].bu[~]no:
 オー。 イシャニー シチョーチョーニ イカラ ケーブノー
 ああ。 医者に 支庁長に それから 警部の

*ə[~]no = i[~]tʃ[~]ban[~]no = ue[~]no = ʃ[~]to[~]ni sannin = o[~]ʒa.roʌdo[~]ʌi'te:
 さな イチバンノ ウエノ シトニ サンニン オジャロァドァイテー。
 その 一番の 上の 人に 3人 おいでになったから。

T ə: = ə̃ = ə̃: so[~]re[~]wa = ə[~]no: ho[~]kkaido:kara te[~]ya[~]mi[~]ya = at[~]te
 ぁー。 ぁ。 ぁー。 ソレワ あノー ホッカイドーカラ テガミガ アッテ
 ん。 ん。 ん。 それは あのう 北海道から 手紙が あって

u[~]ʃan = ta[~]no[~]mo[~]o[~]ʒi[~]san[~]mo ʃi[~]tte = o[~]ʒa.roʌi[~]te so[~]ʃan[~]do[~]ʌ, ya
 ウガン タノモオジサンモ シッテ オジャロァイテ ソグランドァガ
 ああ 頼母おじさんも 言って おいででしたから, そんなですが,

jo[~]ʃi[~]mits[~]sanni ki[~]ttot[~]ʃi: = o[~]m[~]ʃæ:ni = i[~]ki[~]and[~]ʒa[~]roi.te:
 ヨシミツツァンニ キットチャー オメヤーニ イキアンジャロイテー,
 義光さんに 聞いてから あなたに 会わなかったので,

n[~]de = ə[~]no: = x[~]ka[~]o[~]mo x[~]ka[~]m[~]ʃæ:ri[~]nimo = i[~]tte = sa[~]? ə[~]no =
 ンデ あノー ハカオモ ハカミヤーリニモ イッテ サー。 あノ
 それで あのう 墓をも 墓参りにも 行って さあ。 あの

s[~]a = so[~]no = u[~]me[~]tɛ̃ ta[~]mo:roʌ = t[~]o[~]ko,ri:
 サ ソノ ウメテ タモーロァ トコリー。
 さ, その 埋めて くださった ところへ。

M $\overline{ware} = \overline{to.i} = \overline{da.i.no} = \overline{obi.eta} = \overline{f.towa} \overline{da.emo} = \overline{ha.ra}$
 ワレ トリ ダリノー オビエター シトワ ダレモ ハラ
 私 一人 だろう, 知っている 人は 誰も もう

$\overline{mi.na} = \overline{ma.ru}^d \overline{de} = \overline{fi.matte} = \overline{sa}$ (A:) $\overline{son.tjo:sa.u} \overline{wa}$:
 ミナ マルッデ シマッテ サ。(あー) ソンチョーサンワー
 皆 死んで しまって さ。 村長さんは

$\overline{do:3je3je} = \overline{da.rakke.to} = \overline{omo} = \overline{ya}$:
 ドージエンシェー ダラッケート オモー ガー。
 道寿先生 だったかと 思う が。

T $\overline{so.yandannu:wa} = \overline{no} \overline{antoki} \overline{wa}$
 ソガンダンヌーワ ノァ, アントキワ。
 そうでしょう ね, あの時は。

M $\overline{dzur.zsawa} = \overline{no} \overline{da.re} = \overline{datta} = \overline{ka} = \overline{sa.no} = \overline{so.re.kara} = \overline{i.k'umni} =$
 ジュンサワ ノァ, ダレ ダッタ カ さな ソレカラ イクニン
 巡査は ね, 誰 だった か。その それから 幾人

$\overline{ko.lta} = \overline{ka} \dots \overline{da.emo} = \overline{obi.eto} = \overline{ctowa} \overline{wa.re} = \overline{t.o.i.no}$
 コアッタ カ ダレモ オビエートァ ヒトワ ワレ トリノ
 変った か…… 誰も 知っている 人は, 私 一人の

$\overline{wa.ke} = \overline{dan.no} = \overline{wa} \overline{wa.rano} = \overline{mit.fketo} \overline{do} \overline{do.ite} \overline{wa.ia} =$
 ワケ ダンノー ワ。ワラノ ミチケトッダァイテ。ワラ
 訳 だろう よ。私が 見付けたのだから。わし

$\overline{nu} = \overline{mit.fketo} \overline{do} \overline{ya} = \overline{no} \overline{sono} \overline{a.ra} \overline{ukua} \overline{ka'tsu} \overline{ja.ya}$
 ヌー ミチケトッダァガ ノァ。ソノ あら ウクア カツヤガ
 こそが 見付けたのだからね。 その あの あそこは 克哉の

$= \overline{da.ro.ite} = \overline{no} \overline{son.toki} \overline{ni.wa} (a:) \overline{ma.nja} = \overline{wagi.no} = \overline{gani} =$
 ダロァイテ ノァ。ソントキニワ(ア-)マニャー ワギーノ ガニ
 だったから ね。 その時には。 今は 我家の ものに

naioā = ya (A: A) katsūjaya = daioāya = enē hio: no =
 ナロァ ガ。(あーあ) カツヤガ ダロァガ。 あな ヒローノ
 なった が。 克哉の だったが。 あの 牛の飼料の

kuisoā = zūts' = kaioā = mondoā = za (A: ? A:) mukajiwa
 クソァ ズツ カロァ モンドァ ジャ。(あーあー) ムカシワ
 雑草を 日に1度 刈ったもんだ よ。 昔は

= noā ndē itsūmo = kaide te # enū = kusaka: i: = dete:
 ノァ。 ンだ イツモ カリデテ あヌ クサカリー デテー。
 ね。 それで いつも 刈り出て、 あの 草刈りに 出て。

kōgaʒj te = mamaka: a: jtea: u to, wa aji ni = an, oka
 コグァンシテ ママカラー シテアルトワ、 アシニ アニョカ
 こうして 崖から していると、 足に 何か
 (草刈りを)

hendoā = mono ya = ataioite: # enē mitōāni = k̄a honēn
 ヘンドァ モノガ アタロイテ、 あな ミトァニ クァ ホネン
 変な ものが 当るので、 あの 見たら 何と 骨に

= nitoāite

ニトァイテ。

似ていたの。

T otja: = aya'je kottji: = otja: = aya te = o'dza: e
 オチャー アガレ。 コッチー オチャー アガッテ オジャレ。
 お茶を あがれ。 こっちへ お茶を あがって いらっしやい。

honto = omjæ: ya = hanaji = sono = hanafio otja: = aya te =
 ホント オメヤーガ ハナシ ソノ ハナシヨ、 オチャー アガッテ
 ほんと あなたの 話、 その 話を、 お茶を あがって

odza: e

オジャレ。

いらっしやい。

M tʃi:ttō = hanafte ... 不明... so:ɛya = nō = ko:ju: = t'okoro:zanaʃi
 チーット ハナシテ ソレガ ノ コーユー トコロジャナシ
 ちょっと 話して それが ね, こういう 所でなくて

k'usano = nakka = doāite = noā ku,sakkino = nakka nakka =
 クサノ ナッカ ドァイテ ノァ。クサッキノ ナッカ, ナッカ
 草の 中 だから ね。草木の 中, 中

doāite (笑) ikāɛ ja? ko:ɛwa wa:ɛmo: kowakumoanimo =
 ドァイテ。イから ヤッ コレワ ワレモー コワクモ アニモ
 だから。それから やっ これは 私も 恐くも 何も

naka:roā = ya # mita = idzo:wa ke:satsuni = hanasazūn,ja =
 ナカロー ガ。 ミタ イジョーフ ケーサツニ ハナサズニヤ
 なかった が。 見た 以上は 警察に 話さなくては

doāya hanasoniwa = nu 'k'akudzitsū,ni ʃi:abete so:ɛka:ɛ =
 ドァガ。 ハナソニワ ヌ, カクジツニー シラベテ。ソレカラ
 ならないが。話すには また 確実に 調べて それから

kōttʃide kōttʃino = mitʃide: masamiga = iyotte = wasoite
 コッチデー, コッチノ ミチデー, マサミガ イゴッテ ワソイテ
 こっちで, こっちの 道で, 正身が 働いて いたので

masamio? ,tsūroidete 'sa: (ʔA::) andeka = f'tō =
 マサミオ ツロイデテ サー (ああ) アンデカ シト
 正身を 呼びに行つて さ。 なんだか ちょっと

hendoā = mono:ya = a:ro = ya = ueni ʃi:abete = mi:ro: mi:ro: =
 ヘンドァ モノガ アロ ガ, ウエニ。シラベテ ミロー。ミロー
 変な 物が ある が, 上に。調べて 見よう, 見よう

za to adē = o:ɛamo = sū:ɣu = ja:te: (A:) ʃi:abete =
 ジャ, ト* あだ オラモ スグ ヤーテー (あー) シラベテ
 よ, と それで あの人も すぐ やつてきて 調べて

* トヤラ《と言ったら》のヤラを補ってもよいし, トを間埋詞としてもよい。

$\overline{mita.ia}[\overline{ne}]\overline{na.ihuod}=\overline{ningenno}$ $\overline{kotsũdo\bar{\Delta}.da.ia}$ ($\bar{\Delta}$::) $\overline{ik̄a.ia}$ #
 ミタラ ナルホド ニンゲンノ コツドァダラ。(あー) イカラ
 みたら なるほど 人間の 骨なんだ。 それから

\overline{kokono} $\overline{dzũzsani}$ $\overline{soreo}[\overline{t̄o\bar{d}o}]\overline{t̄o\bar{d}oke}^{\uparrow}te:$ ($\bar{\Delta}$::) \overline{stoa} \overline{sokoe}
 ココノ ジュンサニ ソレオ トドケテ (あー) ストア ソコエ
 ここの 巡査に それを 届けて。 すると そこへ

$\overline{dzũzsa\gamma a}=[\overline{ja?}]\overline{jakubato}=\overline{so:da\bar{z}j}^{\uparrow}taka$ # $\overline{ikka}=\overline{sono}=\overline{asũ}$
 ジュンサガ ヤクバト ソーダンシタカ, イッカ ソノ アス。
 巡査が 役場と 相談したか, いくつか その 翌日。

$\overline{ek̄a.ia}$ $[\overline{ʃtj}]\overline{ʃtjo:emo}=\overline{dokke:mo}$ $\overline{deũwa:}$ $\overline{ʃtedannu:}=\overline{\gamma a}$
 あから シチョーエモ ドクケーモ デンワー シテダンヌーガ。
 それから 支庁へも どこへも 電話を してだろうが。

T $\overline{otja}=\overline{hjttsũri}^{\uparrow}jare$
 オチャ ヒツツリヤレ
 お茶を 飲んでください。

M $\overline{sawadzi:õ}=\overline{tanon}^{\downarrow}de:$ (\bar{o} ::) $\overline{jaku\bar{u}ba?}$ $\overline{jakubade}$ $\overline{de:}$
 サワジーオ タノンデー (おー) ヤクバ ヤクバデ デー
 沢爺を 頼んで 役場 役場で で。

T $\overline{a:}=\overline{sawanos}^{\downarrow}keodzisajjo$ $=\overline{,no:}$
 アー サワノスケオジサンヨ ノァ
 ああ 沢之助おじさんを ねえ。

M $\overline{o:}$ 笑 ($?A:$) $\overline{ek̄a.ia}$ $\overline{xako:ũ}$ $\overline{jo:i}^{\uparrow}te$ $\overline{,sa:}$ ($?A:$)
 オー (アー) あから ハコーウ ヨーイシテ サー。(あー)
 ああ (ほう) それから 箱を 用意して さ。

$\overline{ek̄a.ia}=\overline{enũ}$ $\overline{ʃtjo:ka.ia}wa$ $\overline{kottjika.ia:}$ \overline{ikoite} $\overline{tõne.ũ}$
 あから あヌ シチョーカラワ コッチカラー イコイテ トンネル
 それから その 支庁からは こっちから 行くから トンネル

tonne.ruu guutʃini=kjite # ənə =mitʃketoŋ=ʃtoa matʃi,ɾoto

トンネルグチニ キテ あな ミチケトァ シトア マチロト
トンネル口に 来て あの 見付た 人は 待てと

=ju:wake'de: (Λ:) əkəɾə # ,sawadzi:,to: # ,waito
ユーワケデー。 (あー) あから サワジートー ワイト
いうわけで それから 沢爺と 私と

tonne.ruu yutʃie =itte =matʃtaɾa'ɾa: (Λ:) matʃi,ɾutoa
トンネルグチエ イッテ マチタララー。(あー) マチルトア
トルネル口へ 行って 待ったんだよ。 待っていると

=əno: [ʃ]ʃtʃo:tʃo:ni' əkəɾə =ənə ke:buɾto=iʃato
あノー シチョーチョーニー あから あな ケーブト イシャト
その 支庁長に それから その 警部と 医者と

sanniŋŋa =oʒat,te (Λ:) ikəɾɪ tsütte=itte =
サンニंगा オジャッテ, (あー) イから ツッテ イッテ
3人が おいでになって, それから 連れて 行って

misetoŋ =ya # sono=,teja:no =ka =sono=hon,ɛ:wa
ミセトァ ガ。 ソノ テヤーノ クァ ソノ ホニエーワ
見せた が。 その 人達が[その人達だけで]その 骨は

[hə]hakononakjā oʔpi:ekomo =gandattʃi ='ya: (Λ:)
ハコノナキャン オッピーレーコモ グワンダッチ ガー。(あー)
箱の中へ 入れ込んだ ようだっけ が。

ə: waiʃa:a =tʃe:ts'kewa ʃindʒaɾoŋ =ya # əuʔ
ああ ワイシャーア テーツケワ シンジャロァ ガ。 あう
ああ 私たちは 手をつけは しなかった が。 あの

soʔaʒstə =,ka ə: sawaʒi:,to =wai,to: itʃintʃi =
ソグワンスト クァ あー サワジート ワイトー イチンチ
そうすると なんと あのう 沢爺と 私と 1日

$\text{himo}\bar{\alpha} = \text{k}\bar{\alpha}\text{tte} \cdot \quad \bar{\alpha}\text{ka.}\bar{\alpha} = \text{jakubade} \quad \bar{\text{bo:sa}\bar{\alpha}\bar{\text{o}} = [\bar{\alpha}] \quad \bar{\text{jonde}} =$
 ヒモァ カッテー あカラ ヤクバデ ボーサンオ ヨンデ
 暇を かいて それから 役場で 坊さんを 呼んで
 $\bar{\text{sa}} \quad (\text{ɔ::}) \quad \bar{\text{bo:samawa}} = \bar{\text{nu}} = \bar{\text{kono}} = \bar{\text{bo:samadaj}\bar{\alpha}} \cdot \bar{\text{ja:}} \quad (\bar{\Lambda}:)$
 サ。(オー) ボーサマワ ス, コノ ボーサマダララー。(あー)
 さ。 坊様は また この 坊様だった。

$\bar{\text{vimo:}} \# \quad \bar{\text{ut}\bar{\text{fide}} = \bar{\text{s}\bar{\text{u}}\bar{\text{watte:}} \quad [\text{ɔ?}] \bar{\text{ut}\bar{\text{f}}\bar{\text{i:}} = \bar{\text{i}}\bar{\text{neto}}\bar{\alpha} = \bar{\text{wake}}\bar{\text{za}}$
 あいモー ウチデ スワッテー ウチー イレトァ ワケジャ
 それも 家で 坐って 家の中へ 入れた 訳じゃ
 (骨を)

$= \bar{\text{nafi}} \quad \bar{\text{'sa}} = \bar{\text{sono}} = \bar{\text{k}\bar{\text{ot}}\bar{\text{s}}\bar{\text{u}}\bar{\text{u:}} = \bar{\text{'wa}} \quad (\bar{\Lambda}:) \quad \bar{\text{ənu}} \# \quad \bar{\text{tada}} \# \quad \bar{\text{sono}} =$
 ナシ サ ソノ コツー ワ。(あー) あぬ タダ ソノ
 なし さ, その 骨 は。 あの ただ その

$\bar{\text{'x}\bar{\alpha}\text{komo}} = \bar{\text{bets}\bar{\text{u}}\bar{\text{n}}} = \bar{\text{k}\bar{\text{o}}\bar{\text{j}}\bar{\text{i}}\bar{\text{aeta}} = \bar{\text{wake}}\bar{\text{za}} = \bar{\text{nafi:}} \quad \bar{\text{anika}}$
 ハコモ ベツン コシラエタ ワケジャ ナシー, アニカ
 箱も 別に こしらえた 訳じゃ なし, 何か

$[\bar{\text{ri}}\bar{\text{j}}] \bar{\text{ri}}\bar{\text{n}}\bar{\text{obakono}} = \bar{\text{g}\bar{\text{ando}}\bar{\alpha}} \quad [\bar{\text{h}\bar{\alpha}\text{ka?}}] = \bar{\text{h}\bar{\alpha}\text{ko}} = \bar{\text{datt}}\bar{\text{f}}\bar{\text{i}} = \bar{\text{'ya:}} \quad \text{笑}$
 リンゴバコノ グァンドァ ハカ ハコ ダッチ ガー。
 りんご箱の ような 箱 だったけが。

$\bar{\text{soide}} \quad \text{笑} \quad \bar{\text{sawa}}\bar{\text{zi:}} \cdot \bar{\text{ya:}}$
 ソイデ サワジーガー
 それで 沢翁が……

T $\bar{\text{soide}} = \bar{\text{om}}\bar{\text{,}\bar{\alpha}:}\bar{\text{ja:}} \cdot \bar{\text{ya:}} \quad \bar{\text{as'koewa}} \quad \bar{\text{h}\bar{\alpha}\text{t}}\bar{\text{f}}\bar{\text{i}}\bar{\text{maj}}\bar{\text{jam}}\bar{\text{,}\bar{\alpha}:}$
 ソイデ オメヤーシャージャー アスコエワ ハチマンヤメヤー
 それで あなたがたが あそこへ 八幡山へ

$\bar{\text{umejari}} = \bar{\text{no}}\bar{\text{ō?}}$
 ウメヤリ ノァ。
 お埋めになったのですね?

M $\overset{\circ}{o}:: = \overline{umeto\lambda} = \overline{za} = \overline{,sarek\phi ts} \quad \overline{ukw}^? \quad \overline{ukwude} = \overline{ka}$
 オオー。ウメトァ ジャ, サレコツ。ウク ウクデ クッ
 ああ。埋めた よ, 曝骨を。あそこ あそこで 始めて

$\overline{oy\ddot{a}dde} = \overline{mo\dot{r}at,te}:$ $\overline{uki}:$ $= \overline{bo:samamo} = \overline{o\dot{z}at'te}:$ (△:)
 オガッデ モラッテ, ウキー ボーサマモ オジャッテ。(あー)
 挿んで* もらって, あそこへ 坊様も おいでになって。

* 単に「挿んで」でなく、「お経を上げて」ということ。

$\overline{mit\dot{f}ide} = \overline{k\phi\lambda} = \overline{ts\ddot{u}ttat\phi i\phi} = \overline{ogama\dot{r}e} = \overline{bo:sama,mo}:$ (Pε:)
 ミチデ コァ ツッタトチエ オガマレ。ボーサマモ (あー)
 道で 始めて 突立ってから 挿んださ。坊様も

$\overline{do,se}:$ $\overline{ma} = \overline{kanntanna} = \overline{ogami} = \overline{da,\dot{r}annu:ya} = \overline{,sa}$ (Pə:)
 ドーセー マー カンタンナ オガミ ダランヌーガ サ。(ん)
 どうせ まあ 簡単な お経 だったろうが さ。

$\overline{so,\dot{r}a}:$ $\overline{a,\dot{r}o} = \overline{za} = \overline{,\dot{v}an}$ [ə] $\overline{h,\dot{r}a:,\dot{r}i\dot{z}ini}$ (PΔ:δ) $\overline{ənw}^?$
 ソラー アロ ジャ グアン ヒャーリジニ。(あーお) あヌ
 それは ある よ。あのように 入り道に。 アヌ

$\overline{o,\dot{r}edo\ddot{a}} = \overline{,\dot{z}a}:$ (δ') $\overline{wa,\dot{r}e} = \overline{tama,\dot{r}ifo} = \overline{,\dot{t}ets\ddot{u}}$ $= \overline{,\dot{r}ete}$ =
 オレドァ ジャー (ん) ワレ タマイシヨ テツ イレテ
 あれだ よ。 私は 玉石を 1つ 入れて

$\overline{oko\lambda} = \overline{za}$
 オコァ ジャ。
 おいた よ。

T $\overline{m} = \overline{tama,\dot{r}i\dot{y}a}$ $\overline{haitte} = \overline{o\dot{z}a,\dot{r}u} = \overline{za}$
 ん タマイシガ ハイッテ オジャル ジャ。
 ン 玉石が 入って おります ね。

M $\overline{o}:$ $= \overline{ukw,da\dot{r}a}$
 オー ウクダラ。
 ああ, あそこだ。

T waimo = konom₇æ: = jo¹jimitsani:kara = sono = hanafō =
 ワイモ コノメヤー ヨシミツァニーカラ ソノ ハナシヨ
 私も この前 義光兄から その 話を

kjttotji: addemo = sono = taitfo: faya = sono: nakamade
 キットチャー、アッデモ ソノ タイチョーシャガ ソノー ナカマデ、
 聞いてから、何でも その 隊長たちが その 仲間で、

r₇oko: = sorie: omairi yate, ra: = gokujō: [k'a?] yatera? =
 リョコー、ソリユー オマイリガテラー ゴクヨー ガテラ
 旅行、 それへ お参りがてら 御供養 がてら

kōtjfaō = o_{3a}io = wa = tteju: = wakede ,sa: (h₅:)
 コッチャン オジャロ ワ ッテユー ワケデ サー。(ほう)
 こちちへ おいでになる よ っている 訳で さあ

sono [tai?] wa, gin =, taitfo: ya = o_{3a}roōde = sorej =
 ソノ タイッ ワギン タイチョーガ オジャロァデ ソレン
 その 隊 私の家に 隊長が おいでで それに

jamazakisan'tewa: maeno = he: jani = a, ru: soikara = sono =
 ヤマザキサンテワー マエノ ヘーシャニ アルー* ソイカラ ソノ
 山崎さんというのは 前の 兵舎に いた。それから その
 * 52頁、下から9行目の注を参照。

hiatataitteju: = sono = taitfo:, wa taitfo: to: = fo: ko: wa =
 ヒラタタイッテユー ソノ タイチョーワ タイチョートー ショーコーワ
 平田隊っている その 隊長は 隊長と 将校は

'dzembui = wayajani = kōkoni = tomatte = o_{3a}ioōdoite =
 ゼンブ ワガヤニ ココニ トマッテ オジャロァドイテ
 全部 私の家に ここに 泊って おいでだったから

sontok'ini (s::ノ) soide = sono = koromo = sono = hanafō
 ソントキニ。(おー) ソイデ ソノ コロモ ソノ ハナシオ
 その時に そいで その 頃も その 話を

darekaraka usūuusūni =kan̄ =k̄jkararedo:nī =x̄akkiriſta =
 ダレカラカ ウスウスニ クン キカラレドーニ ハッキリシタ
 誰からか うすうすに こう 聞いたけれども はっきりした

kōto: obi:wa =sazū sono ittaruma,ni: j̄akkub,æ:
 コト オビーワ サズ。 ソノ イッタルマニ ヤックビャー
 ことを 知りは しません。その そうこうしているうちに 役場へ

=sono=taitfo:kara teyamiya =o3atte ='sa: (ə)
 ソノ タイチョーカラー テガミガ オジャッテ サー。(ん)
 その 隊長から 手紙が ございまして さあ。

sono[ta?]jamazakittēka=om,æ:ja:ya =mits'kejarōš=çto,no:
 ソノ ヤマザキツェカ オメャーシャーガ ミツケヤロァ ヒトノー
 その 山崎とか あなたたちが 見つけられた 人の

[ta?]onnaſi=būtaino =he:tai,va. x̄atjid3o:'e: =soiekara=
 オンナシ ブタイノ ヘータイガー ハチジョーエー ソレカラ
 同じ 部隊の 兵隊が 八丈へ それから

nannenka =tat,te: ?əns=kan̄ko:nī =o3aru,towa: # sono=
 ナンネンカ タッテ、あの カンコーニ オジャルトワ ソノ
 何年か 経って、あの 観光に おいでになると、その

x̄atjid3o:de =jamazakino=ſ'taiya =mits'katta=so:da =jo:ſ=
 ハチジョーデ ヤマザキノ シタイガ ミツカッタ ソーダ ヨー
 八丈で 山崎の 死体が 見つかった そうだ よ

tojuu: =kōtoo =taitfo:nī =d̄areka=todokētē=todokejattē =
 トユー コトオ タイチョーニ ダレカ トドケテ トドケヤッテ
 という ことを 隊長に 誰か 伝えて 伝えられて

'sa: (həhɔ:) soi,de: taitfo:a =sory: =kan̄g,a:te
 サー。(はほー) ソイデー タイチョーア ソリー カンギャーテ
 さ。(ほほう) それで 隊長は それを 考えて

bak·kari = ftannuute = d3ibunno = buka = dafi: izokuwa:

バッカリ シタンヌイテ* ジブンの ブカ ダシー イゾクワー
ばかり おられるでしょうから 自分の 部下 だし、 遺族は

* シタンヌーフ ドァイテまたはオジャランヌイテでもよい。アランヌイテは
隊長に対する敬意を欠いた言い方となる。

sory: sono = okotsūya = aru = wakede = nafi ʃitaiya =

ソリー ソノ オコツガ アル ワケデ ナシ シタイガ
それを, その お骨が ある 訳で なし, 死体が

ayaro = wakede = nafi = 'no (hō?hō:) sondoi'te kazokuni =

アガロ* ワケデ ナシ ノァ (ほほー) ソンドイテ カゾクニ
見つかった 訳で なし ね。(ほほう) そうだから 家族に

* 八丈では海への飛込自殺が多い。行方不明というたいてい海を探せという
ことになる。それで、山で死体が発見されても、死体がアガルと言う。

dzeçi = sono = itaiya [ʔa.] okotsūya = ara'ba: = okotsūo =

ゼセ ソノ イタイガ オコツガ アラバ オコツオ
ぜび その 遺体が, お骨が あれば お骨を

todoketai he:kara = mofi = kotsūya = wakandzara'ba: = sono =

トドケタイ。ヘーカラ モシ コツガ ワカンジャラバー ソノ
届けたい。それから もし 骨が わからなければ その

dokodokode: kəno itjio = jamazakidaraba jamazakito

ドコドコデー かの イチオー ヤマザキダラバ ヤマザキト
どこどこで この 一応 山崎ならば 山崎と

ko· bo:jini = kaite = at,te: = kakuniz̄ = sareta = ttejju: =

コー ボーシニ カイテ アッター, カクニン サレタ ッテユー
こう 帽子に 書いて あって 確認 された という

kotoda,kewa fenlaku = ʃtaito = juā lite = sa (Δ:)

コトダケワ レンラク シタイト ユァ アイテ* サ。(あー)
ことだけは 連絡 したいと 言った から さ。

* 丁寧に言うとき [juwaite] となるという。

soide = k̄a = om,æ:ya = t'oki: = uyan̄ = tanomoozisan̄ya =
 ソイデ クァ オメヤーガ トキー ウグワン タノモオジサンガ
 それで こそ あなたの 所へ あのように 頼母おじさんが

ozattari' = waya = ki'xī = ittarī əde = tai'fo:nimo =
 オジャッターリ ワガ キキ イッターリ。あデ タイチョーニモ
 おいでになつたり、私が 聞きに行つたり それで 隊長にも

sūyū = waya = deūwa = f'te:(ə:) hōkkaido:de = ozaio = ,ya:
 スグ ワガ デンワ シテー(ん) ホッカイドーデ オジャロ ガー
 すぐ 私が 電話をして 北海道で ございますが。

(ha?ha:) doxite = cidoku = ure'jiyatte' dzejī = sono:
 (ハハー) ドァイテ ヒドク ウレシガッテー ゼシ ソノー
 それで 大変に 嬉しがって ぜひ その

[o?]o:ze:o = tsūre,te: t'oko: kan'ko:yate,ra: kūjo:ni=
 オーゼーオ ツレテー リョコー カンコーガテラー クヨーニ
 大勢を 連れて 旅行 観光がてら 供養に

iko = wa = te' = deūwademo = [f'?]nikaimo = f'abette = noō
 イコ ワ テー デンワデモ ニカイモ シャベッテ ノア,
 行こう と 電話でも 2回も シャベってね。

waito hara = lokuudzu:t'kaku = ozarutts,i: = ja = sono =
 ワイト。ハラ ロクジューチカク オジャルッチー ヤ, ソノ
 私と。もう 60才近く だそうです よ, その

tai'fo:,mo' (ha?ha:) hara = nuu = sandannu: = ya =
 タイチョーモ。 (ハハー) ハラ ヌ* スワンダンヌー ガ。
 隊長も。 もう やはり そんなでしょう が。

adan̄ kokode:
 アダン** ココデー
 なんとと言っても ここで……

* 強調のヌ。

** 「隊長が榎立においでの際は、私も15, 6才だったのだから、なんとと言っても
 隊長が60才近くになられたのも当然でしょう」

M $\overline{do\ddot{a}ya}$ $\overline{sono} = \overline{k\ddot{o}ts\ddot{u}wa} = \overline{ma\ddot{t}ome\ddot{t}e,ka}$ [$\overline{a\ddot{i}?$] $\overline{a,ru\ddot{u}da,ro} = \overline{ya}$:^ノ
 ドァガ ソノ コツワー マトメテカ アルダロー ガー,
 だが その 骨は まとめてかして あるだろうが,

$\overline{adde!mo}$:^ノ

アッデモー

なにがなんでも

T $\overline{ome:ja:ya}$ = $\overline{umeja,o\ddot{a}}$ = $\overline{mon\ddot{d}oite}$ = $\overline{a,ru\ddot{u}da,ro}$:^ノ笑(笑)
 オメーシャーガ ウメヤロー モンドイテ アルダロー
 あなたたちが お埋めになった のですから あるでしょう。

M $\overline{sareto\ddot{a}}$ = $\overline{k\ddot{o}ts\ddot{u}} = \overline{do\ddot{a}ite}$ = $\overline{do\ddot{a}ya}$:
 サレトァ コツ ドァイテ ドァガー
 曝らされた 骨 だから、 だが……

T $\overline{sonde} = \overline{mada} = \overline{tja:ntodo\ddot{a}}$ = $\overline{k\ddot{o}ts\ddot{u}de} = \overline{od\ddot{z}annu:}$ = $\overline{3a}$ =
 ソンデ マダ チャーントドァ コツデ オジャンヌー ジャ
 それで まだ ちゃんとした 骨で しょう ね,

\overline{mada} :^ノ ($\overline{je:}$)^ノ $\overline{sonokorodo\ddot{o}sto} = \overline{mada}$: $\overline{kj't\ddot{t}in'to\ddot{t}o\ddot{a}}$
 マダー (イエー)* ソノコロドット マダー キチントシトァ
 まだ。(もちろん) その頃だと まだ きちんとした

$\overline{ok\ddot{o}ts\ddot{u}de} = \overline{o\ddot{z}arannu:}$ = $\overline{3a}$
 オコツデ オジャランヌー** ジャ。
 お骨で ございませう ね。

* T氏の解説時の発音では [$\overline{e:nw}$] であった。
 ** オジャンヌーよりもオジャランヌーの方が丁寧な言い方。

M $\overline{!e::}$ = $\overline{kj,t\ddot{t}into}$ = $\overline{ata,im,\ddot{a}e}$: [$\overline{\Lambda? \Lambda?}$]
 エー キチント アタリミャー……
 もちろん きちんと 当り前……

T $\overline{\text{soidaraba}} = \overline{\text{ma:da}} = \overline{\text{o}3a.rm} = \overline{\text{daido:}} \quad \overline{\text{h}ai\overline{\text{de}}} \quad (\overline{\text{e:}3})$
 ソイダラバ マーダ オジャル ダイドー。 はいデ (えーあ)
 それならば まだ ございます とも。 それで (そうとも)

$\overline{\text{nid}3u:} \quad \overline{\text{nid}3u:} = \overline{\text{nannnen}} = \overline{\text{do}l\overline{\text{ite}}}$
 ニジュー ニジュー ナンネン ドァイテー。
 20 20 何年 だから

M $\overline{\text{hara}} = \overline{\text{ni}3u:\overline{\text{nei}}} = \overline{\text{id}3o:n} = \overline{\text{nannu:}} = \overline{\text{ya:}} \uparrow$
 ハラ ニジューネン イジョーン ナンヌー ガー。
 もう 20年 以上に なるだろう が。

T $\overline{\text{ni}3u:} = \overline{\text{nannnen}} = \overline{\text{do}l\overline{\text{ite}}} = \overline{\text{no:}l}$
 ニジュー ナンネン ドァイテ ノーア。
 20 何年 だから ね。

M $\overline{\text{nannu:}} = \overline{\text{ya}}$
 ナンヌー ガ。
 なるだろう が。

T $\overline{\text{so}re}^{\text{ni}} = \overline{\text{f}temo:} \quad \overline{\text{waka}i\overline{\text{t}3da:ro:}} \uparrow$
 ソレニ シテモー ワカリタスダロー
 それに しても わかることでしょう。 * [t] は外破音。

M $[\text{ə}] \overline{\text{s}ə\overline{\text{n}ə}}[\overline{\text{f}iu?}] \overline{\text{f}t\overline{\text{f}o:t\overline{\text{f}o:}} = \overline{\text{nakamamo:}} = \overline{\text{sono}} = \overline{\text{x}ak\overline{\text{k}i}ri} =$
 さな シチョーチョー ナカマモー ソノ ハッキリ
 その 支庁長 たちも その はっきり

$\overline{\text{waka}ro}l = \overline{\text{do}l\overline{\text{ite}}} \quad \overline{\text{sono}} \# [\overline{\text{h}o?}] \overline{\text{h}o?kaido:no} = \overline{\text{f}toda} = \overline{\text{to}ju:} = ?$
 ワカロァ ドァイテ ソノ ホッカイドーノ シトダ トユー
 わかった から その 北海道の 人だ という

$\overline{\text{kotomo}} = \overline{\text{a}nimo} (\Delta) \quad \overline{\text{dz}e\overline{\text{b}}^*} = \overline{\text{bo:f}ini} \quad \overline{\text{k}'ak'ete} = \overline{\text{a}i\overline{\text{y}eno}l\overline{\text{ite}}$
 コトモ アニモ(あー)ゼンブ ボーシニ カケテ アラリゲノァイテ,
 ことも 何も 全部 帽子に 書いて あったようだから

* [b] は内破音を示す。

\downarrow
 $\overline{min}na: [w\Delta] waka.ia.i.yena.ia \overline{ode} = \overline{a}fiste = kijattja$
 ミンナー。ワカラリゲナラ。あデ アンシシテ キャッチャ。
 みんな わかったようだ。それで 安心して 帰っていった。

\uparrow
 $(?A::) do\overline{a}ya = \overline{ma}: \# \overline{en}\overline{e} [ma] ma: i. u. bu. n. ya [ma?] ma. i. u. bo. \overline{a}do\overline{a}ya$
 (あー) ドァガ マー あな マールブニャ マルボァドァガ
 だが まあ あの 死ぬには 死んだが

$\overline{adan} \quad \overline{natte} = \overline{ma}: \quad [ʔ:] \overline{tabun} = dʒi'saʔsũ = \overline{dara}$
 アダン ナッテ マー タブン ジサツ ダラ。
 どんなふうになつて まあ 多分 自殺 だ。

T $dʒisatsũ = \overline{darannu}: = wa$
 ジサツ ダランヌー ワ。
 自殺 でしょう よ。

\downarrow
M $o: = dʒisatsũ$
 オー ジサツ……
 ああ、 自殺……

T $\overline{soidejo:ũ} \quad \overline{baʃoʔa}: \quad \overline{taifj}: = \overline{tonneru}: = \overline{ma}' = \overline{dareka} =$
 ソイデヨー ッ バシヨガー タイチー トンネルー、 マー ダレカ
 それでよ、 場所が たいいてい トンネル、 まあ 誰か

\uparrow
 $\overline{kjttõ} \quad [saʔ] \overline{saiyõno} = \overline{sũyato\overline{a}demo} = \overline{mita} = ka: \quad \overline{daitai} =$
 キットー サイゴノ スガトァデモ ミタ カー。ダイタイ
 きつと 最後の 姿をでも 見た か? だいたい

\uparrow
 $\overline{tonneruhen} = \overline{dattfj}: = \overline{ja} = \overline{toju}: = \overline{hanafjo} = \overline{wafamo} =$
 トンネルヘン ダッチー ヤ トユー ハナシオ ワシャモ
 トルネル辺 だそうだ という 話を 私たちも

\downarrow \downarrow
 $\overline{kjkarõite} = 'sa: \quad (\overline{h\Delta?h\Delta:}) \quad \# \quad \overline{waiʃa}: = \overline{wara:} \uparrow$
 キカロァイテ サー (ははん) ワイシャー フラー
 聞いたから さあ 私たちは、 私は

$\overline{wa}y\dot{i}:\overline{nonakamajo}'ri:$ $\Phi\overline{tats'ki,han'}$ $\overline{os\phi kur:}$ = $\overline{ano}=\overline{ito:kara}$
 ワギーノナカマヨリー フタツキハンー オソクー アノ イトーカラ
 家族より 2月半 遅く あの 伊東から、

$\overline{ito:ni}$ = $\overline{aro\lambda doite}$ = $\overline{nc\lambda}$ = $\overline{to:kjo:tono}$ $\overline{joso\lambda}$ = $\overline{fte'}$
 イトニ アロードイテ ノァ トーキョートノ ヨソァ シテー
 伊東に いたから ね, 東京都の 手伝いを して

$(\lambda:\backslash)$ $\overline{\text{šandoite'}}$ $\overline{he:taiya'}$ = $\overline{\text{çkiäyete}}$ $\overline{h\text{ät}j\text{id}3o:kara} =$
 (あー) スワンドイテー, ヘータイガー ヒキアゲテ ハチジョーカラ
 そんなわけで, 兵隊が 引揚げて 八丈から

$\overline{kuuro}=\overline{f\text{toni:}}$ $\overline{ito:de}$ = $\overline{t\text{ä}jka}$ = $\overline{ki:t\text{ä}to}$ = $\overline{omi:t\text{f}tarara}$ #
 クロ シトニー イトーデ タシカ キータト オミータシタララ*
 来る 人に 伊東で 確か 聞いたと 思いました。

* 最初のタは破裂を伴う [t̚] である。母音 [a] は脱落している。今後、必要に応じ、子音記号の下に \cdot または \downarrow を付することによって、それぞれ外破または内破を示すことにする。

$\overline{ome:f\text{a:ya}}$ = $\overline{\text{š}\text{än}}$ = $\overline{k\text{ä}kud\text{zitsüni}} = \overline{umete} = \overline{tamo:rijaru, to:}$
 オメーシャーガ ソワン カクジツ ウメテ タモーリヤルトー
 あなたたちが そのように 確実に 埋めて くださったなら

= $\overline{k\text{ötsüwa}} = \overline{t\text{f}\text{a:nto}}$ = $\overline{o\text{zaruuda, ro:}}$ \uparrow
 コツワ チャーント オジャルダローー
 骨は ちゃんと ございますでしょう?

M $\overline{e:}$ = $\overline{k\text{ötsüwa:}}$ [ʃaʃ] $\overline{\text{anno:wa}}$
 エー コツワー アンノーワ
 もちろん 骨は あるだろう。

T $\overline{otfo\lambda}$ = $\overline{a\text{yarijare}}$
 オチョァ アガリヤレ。
 お茶を あがってください。

M $\overline{wa}j\text{a:}$ = $\overline{no\lambda}$ $\overline{it\text{fint}f\text{i'}}$ = $\overline{himo\lambda}$ = $\overline{k\text{ä}tte'}$ [sa?sa?sawa?]
 ワシャー ノァ イチンチー ヒモァ カッター
 私たちは ね, 1日 暇を かいて

sawadzǐ:wa=ome:ǰa:mo =obiētannu: =3a

サワジーワ オメーシャーヨ オビエタンヌー ジャ。
 沢爺は あんたたちも 知っているだろう ね?

T Δ:Δ sawanoskeogisaō =obiēte =o3a.ɔ =3a

あーあ サワノスケオジサン オビーテ オジャロ ジャ。
 ええ、 沢之助おじさん 知って おります よ。

M o.ɾaga =ma [he?]=foinīz̄sokuuno =wakkedaj̄a=nōā↗

オラガ マ [へっ] ショイニンソクノ* ワッケダラ ノア。
 あの人が、 まあ、 背負い人足の 訳だ な。

* ショイニンソクはトムリヤー《葬式》の時の役の一。遺体を担ぐ役である。
 その他の役にチョーチンモチ《提燈持ち》、テンギャーモチ《天蓋持ち》、ハ
 ナモチ《花持ち》などがある。

(Δ::) əkəɾə =həko,wo =həko: =kətado.ɾiat'te: (fiΔ:)

(あー) あから ハコヲ ハコー カタドリアッテ (ハー)

(アー) それから 箱を 箱を かつぎあって

ε? kōɾā: ō? =kō:jō:dēmā gwɾj̄a:nj̄a =

エーッ コラー オッ コーヨーデマ* グリヤーニャ

えっ これは おい 公用手間 ぐらいには

tsketamo:ɾuda.ɔ: =tette =ē: =ʃtoāda'ɾa: (笑)

ツケタモールダロー テッテ エー シトッダラー。

つけてくださるだろう といって 話したんだよ。

ʃtararedo:nī =ʼa:nimō =soremo =animo:

シタラレドーニ** アーニモ ソレモ アニモー

話したけれども 何も、 それも 何も

* ブラク《部落》のヤマミチブシン《山道普請》、サトミチブシン《里道普請》
 など公の仕事をする場合の、手間代の最低評価基準。[ʼ] (breathy voice)
 は話者のおどけた気分を示す。

** シタレドーという簡略形もよく用いられる。

T 笑 ma· =otʃa =hīttsúirj̄arę

マー オチャ ヒッツリヤレ。

まあ お茶 おあがりください。

M $\overline{\text{tamo}}^{\cdot 4} \overline{\text{indza}} \overline{\text{ro}} \overline{\text{a}} = \overline{\text{ya}} (\text{a}::\uparrow) \overline{\text{do}}::\overline{\text{zuse}} \overline{\text{z}} \overline{\text{fe}}: = \overline{\text{da}}^{\cdot} \overline{\text{ak}} \overline{\text{ke}} \overline{\text{to}} =$
 タモーリンジャロア ガ。(んー) ドージュセンシェー ダラケット
 くださらなかった が。 道寿先生 だっけと

$\overline{\text{omo}}: = \overline{\text{wa}}$

オモー ワ。

思う な*。

*「当時の村長は」を文頭に補うと、文意がはっきりする。

T $\overline{\text{o}}: = \overline{\text{do}}::\overline{\text{zuse}} \overline{\text{z}} \overline{\text{se}}: = \overline{\text{dannu}}: = \overline{\text{no}} \overline{\text{a}} \overline{\text{ant}} \overline{\text{ok}} \overline{\text{i}} \overline{\text{wa}}$
 オー ドージュセンセー ダンヌー ノア, アントキワ。
 ああ 道寿先生 だろう ね, あの時は。

M $\overline{\text{o}}: = \overline{\text{ora}} \overline{\text{da}} \overline{\text{ra}} = \overline{\text{tomoa}} \overline{\text{ra}} (\text{A}::)$
 オー オラダラ トモアラ。(あー)
 ああ あの人だ と思ったよ。

T $\overline{\text{ci}}::\overline{\text{doku}} = \overline{\text{ure}} \overline{\text{ji}} \overline{\text{yatte}} = \overline{\text{no}} \overline{\text{a}} = \overline{\text{sono}} = \overline{\text{tait}} \overline{\text{fo}}::\overline{\text{sam}}^{\cdot} \overline{\text{mo}}: (\text{?} \overline{\text{h}} \overline{\text{h}} \overline{\text{o}}::)$
 ヒードク ウレシガッテ ノア, ソノ タイチョーサンモー。(あ, ほー)
 ひどく 嬉しがって ね, その 隊長さんも。

$\overline{\text{sore}} \overline{\text{bakka}} \overline{\text{ri}} = \overline{\text{mada}} = \overline{\text{atama}} \overline{\text{kara}} = \overline{\text{imama}} \overline{\text{de}}^{\cdot} \overline{\text{ju}}::\overline{\text{sen}} =$
 ソレバツカリ マダ アタマカラ イママデー, シューセン
 そればかり まだ 頭から 今まで, 終戦

$\overline{\text{natt}} \overline{\text{kara}} = \overline{\text{imama}} \overline{\text{de}}^{\cdot} \overline{\text{sore}} = [\text{f?}] \overline{\text{h}} \overline{\text{i}} \overline{\text{kka}} \overline{\text{su}} \overline{\text{ro}} \overline{\text{a}} = \overline{\text{ko}} \overline{\text{to}} \overline{\text{ya}} =$
 ナツテカラ イママデー, ソレ ヒッカスロア コトガ
 なってから 今まで, それ 忘れた ことが

$\overline{\text{nak}} \overline{\text{y}} \overline{\text{k}} \overline{\text{atte}} \overline{\text{ju}} = \overline{\text{wake}} \overline{\text{de}} = \overline{\text{sa}} = \overline{\text{atama}} \overline{\text{kara}} = \overline{\text{sa}} \overline{\text{ro}} \overline{\text{a}} = \overline{\text{ko}} \overline{\text{to}} \overline{\text{ya}} =$
 ナッキヤッテユ ワケデ サ。アタマカラ サロア コトワ
 ないっていう 訳で さ。頭から 去った ことは

$\overline{\text{nak}} \overline{\text{y}} \overline{\text{k}} \overline{\text{atte}} \overline{\text{ju}} = \overline{\text{wake}} \overline{\text{de}}: (\overline{\text{h}} \overline{\text{h}} \overline{\text{h}} \overline{\text{h}} \overline{\text{h}} \overline{\text{h}}::) \overline{\text{so}} \overline{\text{ide}} = \overline{\text{ci}} \overline{\text{do}} \overline{\text{ku}} =$
 ナッキヤッテユ ワケデー。(は, ほー) ソイデ ヒードク
 ないっていう 訳で。 それで ひどく

wɛfjɪyatte: m̄ani: oidoŋ no:gjo:kaiɾjo:Φkɾu:fono=
ウレシガッター, マニー オイドァ* ノーギョーフキューショノ
嬉しがって, 今, あれた, 農業普及所の

* 次の語が頭にすぐ浮かばない場合に用いられる間埋詞。

ʃotʃo: jatte = oʒa.ru = ʒa: = hokkaido:de (h̄λ)
ショチョー ヤッテ オジャル ジャー ホッカイドーデ。(ん)
所長 やって いらっしゃるよ, 北海道で。

w̄ayi:kara=kokkara: = çkia yete = sũyũ,wa no:kjo:i =
ワギーカラ コッカー ヒキアゲテ スグワ ノーキョーイ
私の家から ここから 引き揚げて すぐは 農協へ

tstomete oʒa.ruutti:ʃa:tte = hanafidara = teyam̄i =
ツトメテ オジャルutti-ヤーッテ* ハナシダラ。 テガミ
勤めて おいでだそうだって 話だ。 手紙

* 伝聞の助詞ッチャーは通常 [ttʃie] (明中), [ttʃi:] (大・昭初) と発音されるが, [tti:] と発音されることも時にある。

darōō = ya

ダロァ ガ。

だった が。

M tanomosammo=sōkoni=oʒararattʃi:te = tanomosanni

タノモサンモ ソコニ オジャララッチーテ タノモサンニ
頼母さんも, そこに おいでになったそうなので, 頼母さんに

hanaf̄ta.ɾoŋ = 'ya:
ハナシタロァ ガー*
話した が。

* 伊勢崎頼母氏は当時、樫立地区の自治会長をしていた関係上、役場から連絡を受け、お骨を埋葬してある場所へも行ったそうなので、Mは頼母さんに当時の模様を話したということ。

T o:,o: = tanomooʒisantomo = konomae mata = at,te
オーオー タノモオジサントモ コノマエ マタ アッテ
そう, そう。 頼母おじさんとも この前 また 会って

hanaʃiitʃtarōḷ = ya

ハナシイタシタロー* ガ

話をいたしました が。

* ハナシイタシタローの最初のタの具体音相は外破を伴う [t̚] で母音を含まないが、ゆっくりした丁寧な発音では [t̚a] となる。

M motono jaku₁b₂æ:ʔ atē = teɣamiya = kiʃtōḷ = noḷʃ

モトノ ヤクビャー アテン テガミガ キトァ ノァ。

元の 役場へ 宛に 手紙が 来た ね。

T n: = jakuwb₂æ: atē = teɣamiya = ki:ʃtarōḷ = ya

んー ヤクビャー アテ テガミガ キーチャタロー* ガ。

ンー 役場へ 宛 手紙が 来ました が。

* キーチャタロー [ki:ʃtarōḷ] は、解説時の丁寧な発音では キーチャタロー [ki:t̚aʃtarōḷ]。

M sono = hendʒi ni = no komaroiʔ oi = hendʒio

ソノ ヘンジ ニ ノ コマロイッ* オイ** ヘンジオ

その 返事 に また 困って あの 返事を

* コマロイテと言うつもりだったのであろう。

** 間埋詞。

daʃijannuiteto = omotte' ,hanafi: = ikaraia = kandoḷ =

ダシャンヌイト オモッテー ハナシー イカララ, クェンドァ

出すだろうからと 思って 話しに 行った, こういう

hanaʃi'o: (A:) ədō = soɣandoḷ = ɸu:de: # ənə:

ハナショー。(あー) あだん ソグェンドァ フーデー あなー

話を 結局 そんな ふうで あの

ʃakki:i = dʒu:ʃomo = wakarufi: # soide = sono = kotsūwa

アッキリ* ジューショモ ワカルシー ソイデ ソノ コツワ

はっきり 住所も わかるし それで その 骨は

* 咽喉が狭窄して言いつかえたため、ハッキリ [hakki:i] の [h] が出なかったものであろう。

umete[·] umeto^λ =[↑]tomō =mada =[↑][iki?] ikite =atte
 ウメテー ウメトァ シトモ マダ イキテ アッテ
 埋めて 埋めた 人も まだ 生きて いて、

a[↑]rodo^λite

アロドァイテ。
 いるのだから。

T honto =o,m[↑]æ:ya =ikite =od[↑]zaroi'te: =h[↑]akkiri=wak[↑]attē =
 ホント オメァーガ イキテ オジャロイテー ハッキリ ワカッテ
 ほんと あなたが 生きて いらっしゃるから はっきり わかって

joku =o[↑]zarara =no^λ
 ヨク オジャララ ノァ。
 よう ございました ね?

M o: waya =[↑][ma[↑]ru] 咳 ma[↑]rubuutowa mazū
 オー ワガ マル マルブトワ マズ……
 ああ、 私が 死ぬと 先ず……

T ô: to:zino =oreya:
 んー トージノ オレガー
 ン 当時の そのことが

M nakanak waka[↑].ino^λ =wakedo^λ ='ya
 ナカナカ ワカリノァ ワケドァ ガー。
 なかなか わからない 訳だ が。

T masamisammo =da[↑].remo=[↑]mi:nna =wa[↑]rubijattaji =no^λ
 マサミサンモ ダレモ ミーンナ マルビヤッタシ ノァ。
 正身さんも 誰も みんな なくなられたし ね。

M do[↑]ya =so[↑]kowa =[↑]bukuzū.ete =no: [væve]=[↑]kon'a'da:
 ドァガ ソコワ ブクズレテ ノー。 コニャダー。
 だが そこは 崩れて ね こないだ。

T a: =¹man_{ja} =¹no³
 アー マニャー ノァ
 ああ 今は ね

M o: =¹sono=¹aio³ =¹tokoio¹ya: (A:::) do³ya =¹sono=¹bo:fino =
 オー ソノ アロァ トコロガー。(あー) ドァガ ソノ ボーシノ
 ああ、その あった 所がな。 だが その 帽子の

aio³ =¹toko¹iowa mada nokotte =¹aio = ya jo³fimitsu³ya =
 アロァ トコロワ マダ ノコッテ アロ ガ。 ヨシミツガ
 あった 所は まだ 残って いる が。 義光が

me:nna =¹robię =¹nabeto³da³a =¹sono bo:fino =¹aio³ =
 メーンナ ロビエ* ナベトッダラ。 ソノ ボーシノ アロァ
 みんな ロベを 植えたんだ。 その 帽子の あった
 * ロビエはロベオの融合形。ロベはフェニックス・ロベレニーのこと。

tokoio¹madewa =¹jegima¹de: (A:) [te] dandan =¹kuzürete?
 トコロマデワ シェギマデー (あー) ダンダン クズレ。
 所までは 端まで、 だんだん 崩れ。

k'q'jibatado³ite =¹ha¹ra: (A:A:) kuzürete³ ənə
 コシバタドァイテ* ハラー。(あー, あー) クズレテー あな
 越端だから もう。 崩れて あの
 * 海岸へと落ちて行く断崖とその上部の急斜面を含めコシと言う。コシバタは
 コシの上部に接している平坦地か緩傾斜地を言う。

ftaino aio³ =¹toko¹iowa bu³kuzürete
 シタイノ アロァ トコロワ ブクズレテ。
 死体の あった 所は 崩れて。

T do³to =¹masamisanto =¹takeit¹jino =¹jo³iharukw³ya =¹jamano =
 ドァト マサミサント タケイチノ ヨシハルクンガ ヤマノ
 それだと 正身さんと 武一の〔息子の〕義治君の 畑の

azū = uḡā = omeʃa ya ɕa:tte = odʒa.ru = 'dʒa:
 アズ ウグワン オメシャガ* ヒャーッテ オジャル ジャー。
 境界, あのように あなたたちが 入って いらっしやるね。
 * 丁寧発音ではオメーシャー。

ukū = ɕa:roð = okudʒide = odʒannu = ,dʒa = ieba =
 ウク ヒャーロァ オクジデ オジャンヌ ジャ。イエバ
 あそこを 入った 奥のところ ございましょうね? つまり

dzeppəkini = mamani = tʃkake = ,ho: (o:ノ) ,ukui =
 ゼッペキニ ママニ* チカケ ホー。(オー) ウクイ
 絶壁に 崖に 近い 方? (そうだよ) あそこへ
 * 海岸の崖はコシであるが, それ以外の崖・土手の類をママと言う。

majokɔʃai = ikoã = toko,ro
 マヨコシャン イコァ トコロ。
 真横へ 行った 所?

M o: = majokɔʃan = ,dzū:tto = itte = to* = ,kɔʃibatade
 オー マヨコシャン ズーット イッテ ト コシバタデ
 ああ 真横へ ずうっと 行って コシ端で
 * 間埋音。

,kɔʃide'kan,nʒa:
 コシデカンニャー。
 コシだとも。

T iḡe sono: taitʃo:ʃa:ya = moʃi = odʒaru = 'm,æ:ni =
 いデ ソノー タイチョーシャーガ モシ オジャル メャーニ
 それで その 隊長たちが もし 来る 前に

dzeçi = o,m,æ:ni daitai = konohen = darato = ,jo:
 ゼヒ オミャーニ ダイタイ コノヘン ダラト ヨー
 ぜひ あなたに だいたい この辺 だと よう*
 * ヨーがつくことによって「確かに間違いなくこの辺だ」という気持が表現される。

o^hi:te = moraitakute = sa = ikkai om_ɤæ:aɣ [its] itska =
 オシーテ モライタクテ サ, イッカイ オメヤーガ イツカ
 教えて もらいたくて さ, 1回。 あなたが いつか

tometeyatani no^h (o:) kurumade = ts'ttette a^heroi,te
 トンメテガタニ ノ^h (オー)クルマデ ツッテッテ アゲロイテ。
 朝の仕事前に ね (ああ)車で 連れてってあげますから。

M o: itska = tsūideya araba
 オー イツカ ツイデガ アラバ。
 ああ, いつか ついでが あれば。

T so^handoite = tsūideya = odza^hru = tōkini: = dzeçi. = ori: =
 ソグ^hアンドイテ ツイデガ オジャルトクニ^hー ゼヒー オリ^hー
 そんなわけで ついでが おありの時に ぜび それを

ʃte = tamo:'re:
 シテ タモーレー。
 して ください。

M wa^hja: = nu: lo:bi: = nabete = oi'te = oko^hite = wa^hgi:za:
 ワシャーヌー ロービー ナベテ オイテ オコ^hァイテ ワギー^hジャー。
 私たちはまた ロベを 植えて おいておいたので 私の家では。

T Δ: do^hite = dai,tai = sono = [tai?]
 あー, ド^hァイテ ダイタイ ソノ [タイ]
 ああ, だから だいたい その [隊]

M sono nu: lo:bi: = na^hβeto^h = sono [sō?] sōtono = ho:no
 ソノ ヌー ロビー ナベト^hァ ソノ ソトノ ホーノ
 その なあ ロベを 植えた その 外の 方の

'kō'ʃi ? = dō^hɔ^hdara
 コシッ ド^hァダラ。
 コシ なんだ。

T Δ:: # $\text{taitfo:ya} = \text{odzaio}\bar{\lambda} = \text{tokini:}$
 あー タイチョーガ オジャロァ トキニー。
 ああ、 隊長が おいでになった 時に。

M $\text{ikurak}\bar{a} = \bar{k}\bar{a}\bar{n}$ $[\text{d}\bar{a}]_1 \text{da:nni} = \text{nattadaio}\bar{o}\bar{y}\bar{a} = \text{no}\bar{\lambda}$ (ẽ:)
 イクラカ クワン ダーンニ ナッタダロァガ ノァ ン
 幾らか こう 段に なっていたんだが ね。

$[\text{v:}] \text{kono} = \text{u}_1 \text{eno} = \text{dan}_1 \text{ni:}$ $\text{sono} = \text{bo:ji}\bar{z}\bar{j}\bar{a}: \text{wa} = \text{aio}\bar{\lambda}\text{daia}$
 コノ ウエノ ダンニー ソノ ボーシンシャーワ アロァダラ。
 この 上の 段に その 帽子なんかは あったのだ。

(Δ::ノ) bo:jini: $\text{sai}\Phi\text{umo}$ $\text{okka}\bar{j}\text{kemon,de:}$ $[\text{k}\bar{a}] \text{kanemo} =$
 (あー) ボーシニー サイフモ オッカシケモンデー カネモ
 帽子に 財布も、 粗末なもので 金も

$\bar{z}\text{issendaka}$ $\text{ni}\bar{z}\text{issendaka}$ $[\text{a}^? \text{a}^? \text{a}^?] \text{a}\bar{u} = \Phi\text{u:} = \text{datt}\bar{j}\bar{i} = \text{ya} =$
 ジッセンダカ ニジッセンダカ アル フー ダッチ ガ。
 10銭だか 20銭だか ある よう だったつけ が。

$[\text{d}\bar{z}\text{u}^?]\text{d}\bar{z}\text{u}\bar{z}\text{sano} = \bar{k}\bar{a}$ $= \text{mit}\bar{j}\text{ke,te:}$ (h̄:) $\text{'wa:ia} = \text{soreo} =$
 ジュンサノ クワ* ミチケテ (はー) ワラ ソレオ
 巡査の ほうが 見付けて 私は それを

*「私でなく、巡査の方が」。クワは強調卓立の機能を持つ。

$\text{mit}\bar{j}\text{kendzara}'\bar{r}\bar{a}: (h\bar{\lambda}:)$ ha:ia: $\text{kotsg}\bar{a}: = \bar{k}\bar{a}$
 ミチケンジャララー。 (はー) ハラー コツギャー クワ
 見付けなかったんだよ。 もう 骨の中へ ひよこっと

$[\text{k}_r]'\bar{k}\bar{y}\bar{a}: \text{ioni}$ $\text{d}\bar{z}\text{u}\bar{z}\text{sa}\bar{y}\bar{a} = \bar{k}\bar{a}$ $\text{,a}^? = \text{bo:ji}\bar{j}\bar{y}\bar{a} = \text{k}\bar{o}\bar{k}\bar{o} =$
 キャーロニ*。ジュンサガ クァ アー ボーシガ ココン
 帰りがけに。巡査が ひよこっと ああ 帽子が ここに

* この文は、ハラーキャーロニ、コツギャークワイレタンニャー、ワイシャー
 オピーノー マニ。《もう帰るといふ時に、骨の中へひよこっと〔巡査が〕入
 れたのさ、私たちが知らないまに》とでもいふべきところ。

$\bar{a},\bar{i}u$ $dzo:te=fte$ = $\overline{mitf'k\bar{e},te}$: (h Δ :ノ) $d\bar{e}i\bar{t}\bar{e}$ [\bar{e}] $i\bar{x}\bar{o}\bar{i},\bar{i}o$ =
 アル ゴーテ シテ ミチケテ。 (は-) どあいて イロイロ
 ある と 言って 見つけて。 だから いろいろ

$\overline{tabakono}=\overline{s\bar{u}i\bar{g}a,\bar{i}atoka}$ $\overline{mat,t'j'it'oka}$ $\overline{n\bar{a}ndemo}=\overline{sono}$ $\overline{s\bar{o}k\bar{o}ni}$
 タバコノ スイガラトカ マッチトカ ナンデモ ソノ ソコニ
 煙草の 吸殻とか マッチとか なんでも その そこに

(a.) \overline{mada} $\overline{marubinno\bar{a}}=\overline{ut'jini}$ $\overline{s\bar{o}k\bar{o}ni}=\overline{o,\bar{z}attada}$ =
 (ア-) マダ マルビンノァ ウチニ ソコニ オジャッタダ
 まだ 死なない うちに そこに おいでだったんだ

$\overline{no\bar{a}}$ (Δ :) $\overline{soika,\bar{i}a}$ $\overline{t'j'otto}=\overline{ko\bar{y}o\bar{N}}$ [$\bar{k}\bar{q}$] $\overline{ot'j'ito\bar{o}}$ =
 ノァ。 (あ-) ソイカラー チョット コゴン オチトァ,
 ね。 それから ちょっと このように 落ちた,

$\overline{k\bar{o}k\bar{o},ni}$ $\overline{\bar{e}n\bar{e}}$ $\overline{j'tai\bar{y}a}=\overline{\bar{a},\bar{i}o\bar{a}d\bar{o}\bar{i},te}$: (Δ :) Δ : $\overline{k\bar{o}k\bar{o}de}$ =
 ココニ あな シタイガ アロードァイテ。 (あ-) あー ココデ
 ここに あの 死体が あったから。 アー ここで

$\overline{it't'ji}$: [$\bar{m}a\bar{s}$] $\overline{ma,\bar{i}ubinay\bar{a},\bar{i}a}$ = $\overline{waj\bar{a},\bar{y}a}$ = $\overline{k\bar{a}n\bar{g}e:dewa}$
 イトチー* マルビナガラ ワシャガ** カンゲーデワ
 坐っていて 死にながら 私たちの 考えでは

* イトチーは、丁寧発音ならば [$\bar{i}t\bar{o}t'j'i$] か [$\bar{i}t\bar{o}t'ji$] となる。

** 丁寧発音ではワイシャーである。

[$\bar{b}u$] $\overline{b\bar{u}kk\bar{o}r\bar{o}dde}$ = $\overline{i\bar{k}u,\bar{i}aka}$ $d\bar{e}$ = $\overline{k'ok\bar{o}wa}=\overline{no}$ = $\overline{\bar{e}n\bar{e}}$
 ブッコロッデ イクラカ だ ココワ ノー はな
 転んで いくらか、 だが ここは ねえ、 その

$\overline{at't'j\bar{a},\bar{y}a,\bar{i}adano}$ = $\overline{k\bar{u},\bar{i},\bar{s}adano}$ $\overline{\bar{e}n\bar{e}}$ $\overline{\bar{a}nikano}$ $\overline{at\bar{t}\bar{e}}$
 アッチャーガラダノ クサダノ あな アニカノ アッテ,
 あじさいの木だの 草だの あの 何やかやと あって,

$\overline{da,\bar{i}edo:ni}=\overline{wa,\bar{i}a}$ \overline{sono} $\overline{fi\bar{e},no}$ = $\overline{u,\bar{i}ede}$ $\overline{\bar{e}n\bar{e}}$ $\overline{k\bar{u},\bar{s}o\bar{a}}$ =
 ダレドーニ ワラ ソノ ほノ ウエデ あな クソァ
 だけれども 私は その その 上で あの 草を

$\overline{ka}\overline{io}\overline{\lambda} = \overline{do}\overline{\lambda}ite$ $'sa'$ (Λ:) 笑 $\overline{ai}de = \overline{ka}$ [s:] $\overline{hendo}\overline{\lambda} \dots$
(吸気の [s])

カロー ドァイテ サー (アー) あイデ クァ ヘンドァ……
 刈った から さあ。 それで ひょっと 変な……

T $\overline{kowari} = 'ja = \overline{sont}\overline{oki},\overline{wa}$ $\overline{okkanake} = \overline{kowari} = \overline{na},\overline{ka}$
 コワリー ヤ ソントキワ。 オッカナケ コワリー* ナカ。
 熟林 か、 その時は? よく茂った 熟林の 中?

* 切替畑の木が十分に生い茂り、木が切れる段階。

$\overline{mada} = \overline{kowari}:to = \overline{ju}:\overline{za} = \overline{oza}\overline{zannu} = \overline{wa}$
 マダ コワリート ユージャ オジャンジャンヌー ワ。
 まだ 熟林 いうのでは ございませんでしょう ね。

$\overline{mada} = \overline{kusa}\overline{ya} = \overline{oza}\overline{io}\overline{\lambda}doite$
 マダ クサガ オジャロァドイテ。
 まだ 草が ございましたから。

M $\overline{man},\overline{a} = \overline{su}\overline{y}\overline{ande} = \overline{bukku}\overline{zuz}\overline{u},\overline{ete}$ $\overline{nakke}\overline{ya} = 'sa': (\text{õ:})$
 マニャー スグァンデ ブックズレテ ナッケガ サー。(ん)
 今は そんなで 崩れて なくなっているが さあ。

$\overline{s'ont'okin},\overline{a} = \overline{kijama}no$ \overline{nakka} $\overline{dara},\overline{ra}:$
 ソントキニャ キヤマノ ナッカ ダララー
 その時には 草山の 中 だった。

T $\Lambda: \nearrow \overline{ma}\overline{yuz}\overline{z} = \overline{fakso}\overline{\lambda} = \overline{kariso}:$ $= \overline{guir},\overline{a}:\overline{do}\overline{\lambda}to = ,\overline{no}\overline{\delta}$
 あー マゲン シタクソァ カリソー* グリャードット ノァ
 アー、やはり 下草を 刈りに行く ぐらいたと ね。

* カリソをカロとすると普通の言い方である。カリソは少し敬意が入る。
 カリオジャロとなると相当の敬意がこめられた言い方である。

$\overline{a}: = \overline{sor},\overline{a} = \overline{oka}\overline{yesamade} = \overline{hon},\overline{to}::$
 アー ソリャ オカゲサマデ ホントー。
 ああ、それは ありがとうございます、本当に。

M $\overline{do\lambda ya}$ $\overline{daiitji}$ = \overline{sono} : [$\int?$] \overline{staiya} = \overline{ma} : [$\int?$] $\overline{?}$ ($\overline{?}$ ↓)
 ドッガ ダイイチ ソノー シタイガ マー (あー)
 だが 第一 その 死体が まあ

$\overline{a.owake}$ = $\overline{do\lambda ite}$ = $\overline{no\lambda}$
 アロワケ ドァイテ ノァ。
 ある訳 だから ね。

T $\overline{soido\lambda ite}$ = $\overline{a\int inde}$ = $\overline{u.iefku}$ = $\overline{od\int arudo\lambda}$ = \overline{ya}
 ソイドァイテ アンシンデ ウレシク オジャルドァ ガ。
 それだから 安心で 嬉しゅう ございます が

M $\overline{soi\epsilon}$ $\overline{k\grave{a}}$ = $\overline{o,ko\lambda}$ = \overline{wake} = $\overline{do\lambda ite}$
 ソリエ クァ オコァ ワケ ドァイテ。
 それを とにかくちゃんと 埋めた 訳 だから。

T $\overline{o\int arunowa}$ $\overline{\int o:\gamma ats\ddot{u}}$: = $\overline{it\int iyatska}$ = $\overline{ni\gamma ats\ddot{u},\gamma o.10}$ =
 オジャルノワ ショーガツー イチガツカ ニガツゴロ
 いらっしゃるのは 正月, 1月か 2月頃

$\overline{od\int annaika}$ = $\overline{no\lambda}$ = $\overline{nandaka}$ = $\overline{konomaeno}$ = $\overline{t^{\epsilon}\gamma amiza}$
 オジャンナイカ ノァ, ナンダカ コノマエノ テガミジャー。
 おいでにならないか ね, なんだか この前の 手紙では。

M $\overline{'bo:samamo}$ = $\overline{k\grave{it}\epsilon}$ = $\overline{go'zatterno}$ = $\overline{jokanno}$: ……不明瞭……
 ボーサマモ キテ ゴージャットモ ヨカンノー……
 坊様も 来て ご覧になっても よかろう (がねえ) ……

T $\overline{'bo:samawa}$ = $\overline{dzendze\check{s}}$ = $\overline{o,bi\epsilon:nd\int a.ni\gamma ina.1a}$
 ボーサマワー ゼンゼン オビエーンジャリギナラ。
 坊様は 全然 知らないようです。

M $\overline{\int'kkas'ttaka}$ = $\overline{no\lambda}$ (笑)
 ヒッカスツタカ ノァ。
 忘れたか な。

T (笑) $\overline{\text{tanomoodzisaŋŋa}} = \overline{\text{om,}j\text{æ:kara}} = \overline{\text{k}i\overline{\text{kijattot}}j\text{i:}}$ (笑)

タノモオジサンガ オメヤーカラ キキヤットチー
頼母おじさんが あなたから お聞きになって

$\overline{\text{deũwafte}} = \overline{\text{go:}z\text{a.i}a\overline{\text{i}y\text{i:}no\overline{\text{a}}}} = \overline{\text{,}y\text{a:}}$ (Am) $\overline{\text{s}a\overline{\text{ndatt}}j\text{i:}}$ =
デンワシテ ゴージャライギーノァ ガー。(あん) ソワンダッチー
電話して ごらんになったようでした が。 そうだそうです

$\overline{\text{,}d\text{z}a:}$ $\overline{\text{dzendzej}} = \overline{\text{ç}^{\cdot}\text{k}k\text{asũraratte}} = \overline{\text{sũy\text{i:}nara}$
ジャー。 ゼンゼン ヒッカスララッテ スギーナラ。
よ。 ぜんぜん 忘れてしまったと 言っているようですよ。

M $\overline{\text{do}\overline{\text{a}}y\text{a}^{\cdot}}$ $\overline{\text{w}a\text{y}a}$ [hana?] $\overline{\text{h}a\overline{\text{naseba}}^{\cdot}}$ $\overline{\text{,}w\text{a.i}a} = \overline{\text{nur}^{\cdot}} = \overline{\text{betsũmi}} =$

ドァガー ワガ ハナセパー。 ワラ ヌー ベツニ
だが 私が 話せば。 私は また 別に
(坊様も思い出すだろうが)

$\overline{\text{tanomi}} = \overline{\text{i}ko\overline{\text{a}}}$ = $\overline{\text{,}t\text{o}z\text{a}}$ = $\overline{\text{nakke}} = \overline{\text{y}a}$ = $\overline{\text{,}j\text{aku}^{\cdot}\text{bade}} = \overline{\text{k}a}$
タノミ イコァ シジャ ナッケ ガ ヤクバデ クワ
頼みに 行った 人では ない が。 役場で [私でなくて]

[$\overline{\text{tano?}}$] $\overline{\text{tanõma.regena}^{\cdot}\text{,}e\text{:}}$ (A:) $\overline{\text{tanomi}} = \overline{\text{i}ko\overline{\text{a}}}$ $\overline{\text{,}t\text{o}z\text{a}}$ =
タノマレゲナレー。(あー) タノミ イコァ シトジャ
頼んだようだよ。 頼みに 行った 人では
(私は)

$\overline{\text{nakkedo:}y\text{a}}$ # $\overline{\text{fi}kk\text{asũro}}$ = $\overline{\text{hadzũwa}}$ = $\overline{\text{nakke}y\text{a}}$ = $\overline{\text{no}\overline{\text{a}}}$ ノ
ナッケドーガ。 ヒッカスロ ハズワ ナッケガ ノァ。
ないが。 忘れる はずは ないが ね。

[$\overline{\text{ts}}$] = $\overline{\text{,}t\text{s}^{\cdot}\text{tattt}}j\text{i:}$ = $\overline{\text{k}a}$ = $\overline{\text{no:}}$ [$\overline{\text{o}}$], $\overline{\text{o}g\text{and}z\text{an}y\text{a:}}$ 笑
ツッタットチー クァ ノー オガンジャンチャー*
立ってから とにかく ね, 挿んだよ。

* オガンダララ エー 《[そのまま簡単に] 挿んだっけよ》と同意である。

T (笑) $\overline{\text{oidemo:}}$ = $\overline{\text{mu}ko:kara} = \overline{\text{o}z\text{a.i}u}$ $\overline{\text{n}ak\text{am}a\text{y}a}$ [$\overline{\text{s:}}$] $\overline{\text{x}a\overline{\text{k}a}y\text{a}}$ =

オイデモー ムコーカラ オジャル ナカマガ ハカガ
それでも むこうから おいでの人達が 墓が

$\overline{tʃa:nto}$ = $\overline{uʔan}$ = \overline{natte} = $\overline{oʒa:roite}$ = $\overline{duʔoũ}$ =
 チャント ウガン ナッテ オジャロイテ ドッゴン
 ちゃんと あのように なって ございますから どんなに
 $\overline{u.æfkw}$ = $\overline{oʒa:ruka}$ = $\overline{noð}$
 ウレシク オジャルカ ノァ
 嬉しく おいでか ね。

M $\overline{soiðʒa}$ nuw……
 ソイジャ
 それでは また……

T $\overline{izo:kumo}$ = $\overline{oʒa:ruʔtʃi:tte}$ = $\overline{sa:}$
 イゾクモ オジャルッチーッテ サー
 遺族も おいでになるそうで さ。

M $\overline{oʒa:ruʔ}$ = \overline{da} = $\overline{no\lambda}$
 オジャル ダ ノァ
 おいでになるの だ ね。

T $\overline{oʒa:ruʔtʃi:ja}$ = \overline{sono} = $\overline{,taifjo:ʔa}$ $\overline{,wayini}$ = $\overline{a:ro\lambda}$ =
 オジャルッチーヤ, ソノ タイチョーガ。ワギニ アロァ
 おいでになるそうです, その 隊長が。 私の家に いた

$\overline{sono:}$ = $\overline{çi:atataitte}$ = $\overline{ju:}$ = $\overline{taifjo:ʔa}$ $\overline{tʃu:finni}$ = $\overline{nat,te:}$
 ソノー ヒラタタイッテ ユー タイチョーガ チューシンニ ナッテ
 その 平田隊って いう 隊長が 中心に なって

$\overline{,hekiju:kaiṭka}$ $\overline{aniju:kaiṭka}$ = $\overline{fija:ro\lambda}$ = $\overline{,ʔa:}$ (ə:)
 ヘキユークイトカ アニユートカ シヤロァ ガー。(ん)
 碧友会とか なに友会とか 言っておられた が (ん)

\overline{sono} = \overline{kaijo} = \overline{tsktte} = $\overline{uʔən}$ = $\overline{toʃsadaantʃaʒʃa:ʔa}$ =
 ソノ カイヨ ツクッテ ウガン トシサダアンチャンシャーガ
 その 会を 作って あのように 敏貞さんたちが

$\overline{u\check{v}ani}$ = $\overline{maine\check{o}}$ = $\overline{od\check{z}a.ru}$ = $\overline{,d\check{z}a:}$ (hΛhΛ:) $\overline{(h\Lambda h\Lambda:)}$
 ウグァニ マイネン オジャル ジャー。 (ははー)
 あのように 毎年 おいでになりますね。
 (東京へ)

$\overline{he:taito}$ = $[\overline{ob,a?}]$ = $\overline{ano:}$ = $\overline{he:taide}$ = $\overline{dz\check{u}ts}$ = $\overline{\check{u}\check{v}an}$ =
 ヘータイト アノー ヘータイデ ズツ ウガン
 兵隊と あの 兵隊で 定期的に あのように

$\overline{kaiyo:de}$ (hΛhΛ:) \overline{soide} = \overline{nenni} = $\overline{ikkaidz\check{u}ts\check{u}} = \overline{so\check{k}odem}$
 カイゴーデ。(ははー) ソイデ ネンニ イッカイズツ ソコデモ
 会合で。 それで 年に 一回ずつ そこでも

$\overline{ano} = \overline{ats\check{u}mat,te:}$ $\overline{as\check{u}buttfi:ja:}$ (hΛ) $\overline{\check{s}andattfi:ya}$ =
 アノ アツマッテー アスブッチャー。(は) スワンダッチーガ
 あの 集って 遊ぶそうですよ。 そうだそうですが

\overline{sono} = $\overline{nakamade}$ = \overline{dareka} = \overline{sono} = $\overline{sak\check{k}ino}$ = $\overline{jo\check{l}\check{v}ani}$
 ソノ ナカマデ ダレカ ソノー サッキノ ヨァグゥニ
 その 人達で 誰か その さつき 言ったように

$\overline{he:taiya}$ = $\overline{k\check{o}ttfi:}$ = $\overline{asu\check{d}de}$ = $\overline{ku.ru\check{u}to}$ = $\overline{nannengonika}$ =
 ヘータイガ コッチー アスッデ クルト ナンネンゴニカ
 兵隊が こっちへ 遊びに 来ると 何年後にか

$[\overline{jama?}]$ $\overline{tonneruno}$ = $[\overline{to?}]$ \overline{sobade} = $\overline{jamazakino}$ = \overline{ftaiya}
 ヤマ トンネルノ ソバデ ヤマザキノ シタイガ
 トンネルの そばで 山崎の 死体が

$\overline{ano:}$ $[\overline{k\check{o}t}]$ $\overline{ano:}$ = \overline{itaiya} = $\overline{wakatta}$ $\overline{ano:}$ = $\overline{mitskatta}$ =
 アノー [コッ] アノー イタイガ ワカッタ, アノー ミツカッタ
 あのを [骨] あのを 遺体が わかった, あのを 見付かった

$\overline{so:desu}$ = \overline{jo} = \overline{tte} = $\overline{ju:}$ = $\overline{k\check{o}too}$ $\overline{tait\check{s}o:ya}$ $\overline{t'okori}$ =
 ソーデス ヨ ッテ ユー コトオ タイチョーガ トコリ
 そうです よ, って いう ことを 隊長の ところへ

\downarrow
 $\text{[to}\bar{\Lambda}\text{,de:} = \text{tait}\bar{\text{[o:wa}} = \text{[jo?]} \text{ure}\bar{\text{[k,te:}} = \text{soide} = \text{soid}\bar{\text{[a:}} \\
 \text{シトァデ} \quad \text{タイチョーワ} \quad \text{ウレシクテ} \quad \text{ソイデ} \quad \text{ソイジャー} \\
 \text{伝えたので} \quad \text{隊長は} \quad \text{嬉しくて} \quad \text{それで} \quad \text{それでは}$

\downarrow
 $\text{warewareya} = \text{kuru}\bar{\text{w[jinda:}} = \text{ha}\bar{\text{[jidzo:,de:}} \quad \text{orie} = \text{so}\bar{\text{[yan}} = \\
 \text{ワレワレガ} \quad \text{クルシンダー} \quad \text{ハチジョーデー} \quad \text{オリエ} \quad \text{ソグワン} \\
 \text{我々が} \quad \text{苦勞した} \quad \text{八丈で} \quad \text{それを} \quad \text{そのように}$

\downarrow
 $\text{teju:} = \text{akede} = \text{minnade} = \text{hana}\bar{\text{[fiat'te:}} \quad \text{daitai} = \text{[kima}\bar{\text{[?]}=} \\
 \text{テユー} \quad \text{アケデ*} \quad \text{ミンナデ} \quad \text{ハナシアッテ} \quad \text{ダイタイ} \quad \text{[キマツ]} \\
 \text{という} \quad \text{訳で} \quad \text{みんなで} \quad \text{話しあって} \quad \text{だいたい} \quad \text{[決まっ]}$

* [w] が [u:] から切れ目なく続いたため落ちたものであろう。

\downarrow
 $\text{k}\bar{\text{[koe}} = \text{od}\bar{\text{[zaro}} = \text{k}\bar{\text{[otowa}} = \text{ki}\bar{\text{[matte}} = \text{ozar}\bar{\text{[uttfi:ja:}} \quad (\text{h}\bar{\Lambda}\text{h}\bar{\Lambda}) \\
 \text{ココエ} \quad \text{オジャロ} \quad \text{コトワ} \quad \text{キマッテ} \quad \text{オジャルッチャー。} \quad (\text{はは-}) \\
 \text{ここへ} \quad \text{おいでになる} \quad \text{ことは} \quad \text{決まって} \quad \text{らっしゃる} \quad \text{そうです。}$

\downarrow
 $\text{do}\bar{\text{[ite}} = \text{it}\bar{\text{[io:}} \quad \text{nikaimo} = \text{de}\bar{\text{[uwa}} = \text{[tara}} = \text{hido:}\bar{\text{[kur}} \\
 \text{ドァイテ} \quad \text{イチオー} \quad \text{ニカイモ} \quad \text{デンワ} \quad \text{シタラ} \quad \text{ヒドーク} \\
 \text{ですから} \quad \text{一応} \quad \text{2回も} \quad \text{電話を} \quad \text{したら} \quad \text{大変に}$

\downarrow
 $\text{ure}\bar{\text{[fiyatte}} = \text{no:} \quad (\text{h}\bar{\Lambda}\bar{\Lambda}) \quad \text{onna}\bar{\text{[fi}} = \text{ikk}\bar{\text{[uikkumi:}} \quad \text{so:}\bar{\text{[ju:}} \\
 \text{ウレシガッテ} \quad \text{ノー} \quad (\text{は}^{\Lambda}) \quad \text{オンナシ} \quad \text{イックイックニー} \quad \text{ソーユー} \\
 \text{嬉しがって} \quad \text{ねえ。} \quad \text{同じ} \quad \text{行きついでに} \quad \text{そういう}$

\downarrow
 $\text{t}\bar{\text{[anto}} = \text{x}\bar{\text{[akamademo}} = \text{tsk}\bar{\text{[utte}} = \text{oite}} = \text{mo}\bar{\text{[atte:}} \\
 \text{チャント} \quad \text{ハカマデモ} \quad \text{ツクッテ} \quad \text{オイテ} \quad \text{モラッテ} \\
 \text{ちゃんと} \quad \text{墓までも} \quad \text{作って} \quad \text{おいて} \quad \text{もらって}$

\downarrow
 $\text{ai}\bar{\text{[yatak,kyja}} = \text{tteju:} = \text{kotoo} = \text{[t}\bar{\text{te}} = \text{ozar}\bar{\text{[o}\bar{\Lambda}} = \bar{\text{[ya}} = \\
 \text{アリガタッキヤ} \quad \text{ッテユー} \quad \text{コトオ} \quad \text{シッテ} \quad \text{オジャロァ} \quad \text{ガ,} \\
 \text{ありがたい} \quad \text{っていう} \quad \text{ことを} \quad \text{言っ} \quad \text{て} \quad \text{おいで} \quad \text{だった} \quad \text{が,}$

\downarrow
 $\text{de}\bar{\text{[uwa'demo}} \quad (\bar{\Lambda}) \quad \text{do}\bar{\text{[ya}} = \text{nikai} = \text{de}\bar{\text{[uwa}\bar{\text{[f}\bar{\text{te}} \quad \# \quad \text{hana}\bar{\text{[fi}} = \\
 \text{デンワデモ。} \quad (\text{あ}^{\Lambda}) \quad \text{ドァガ} \quad \text{ニカイ} \quad \text{デンワシテ} \quad \text{ハナシ} \\
 \text{電話でも。} \quad (\text{シ}) \quad \text{けれど} \quad \text{2回} \quad \text{電話して} \quad \text{話を}$

$\text{ʃtaro}\bar{\lambda} = \bar{\gamma}a$ $\text{taitʃo:san,}\bar{t}o$ $(\text{h}\bar{\lambda})$ # $\text{d}^*u\bar{\gamma}a\bar{u}\bar{i} = \bar{u}r\bar{e}\bar{f}k\bar{u} =$
 シタロァ ガ, タイチョーサント。(は^ん) ズガン ウレシク
 しました が, 隊長さんと。 どんなに 嬉しく

$\bar{o}z\bar{a}r\bar{u} = \bar{k}a = \text{,}k\bar{a}d\bar{z}o\bar{k}u\bar{u}n\bar{o} = \text{ʃt}o\bar{d}e\bar{m}o = \text{,}t\bar{s}'t\bar{t}e = \bar{o}d\bar{z}a\bar{r}u =$
 オジャル カ。 カゾクノ シトデモ ツッテ オジャル
 おいで か。 家族の 人でも 連れて おいでになる

$\bar{k}a = \text{d}o:\bar{d}a = \bar{k}a = \bar{a}n\bar{o} = \bar{b}u\bar{t}a\bar{i}w\bar{a} = \text{'d}z\bar{e}m:\bar{b}u\bar{i} = \text{h}\bar{o}k\bar{k}a\bar{i}d\bar{o}:\bar{n}o =$
 カ, ドーダ カ。 アノ ブタイワ ゼンブ ホッカイドーノ
 か どうだ か。 あの 部隊は 全部 北海道の

$\text{ʃt}o\bar{d}e = \bar{o}z\bar{a}r\bar{o}i,\bar{t}e:$
 シトデ オジャロイテ。
 人で ございますから。

M $\text{so}\bar{\gamma}\bar{a}n = \text{d}a\bar{r}a\bar{i}\bar{\gamma}i\bar{n}a\bar{r}a$
 ソグァン ダラリギナラ。
 そう らしいね。

T $\text{'d}z\bar{e}m:\bar{b}u\bar{i} = \text{h}\bar{o}k\bar{k}a\bar{i}d\bar{o}:$
 ゼンブ ホッカイドー……
 全部 北海道……

M $\text{wa}\bar{r}a = \text{,}n\bar{u}:\bar{=} = \text{son}\bar{o} = \text{ʃt}o\bar{\lambda}$ $\text{ik}\bar{i}\bar{t}e\bar{f}j\bar{r}u\bar{=} = \text{t}\bar{o}k\bar{i}w\bar{a} = \text{no}^{\cdot} =$
 ワラ ヌー ソノ シトー イキテシル トキワ ノー,
 私は また その 人を 生きている 時は ね,

$\bar{o}b\bar{i}:\bar{n}a\bar{k}k\bar{a}$ $(\text{?}\bar{o}:\bar{=})$ 笑 $[\text{ja}],\text{jat}\bar{f}o\bar{s}a\bar{n}g\bar{e}:\bar{f}a\bar{e},\bar{m}o^{\cdot}$ $\bar{a}s\bar{u}\bar{d}\bar{d}e =$
 オビーナッカ。(ん) ヤチョサンゲーシャエモー アスッデ
 知らないよ。 八千代さんの家などへも(来て)遊んで

$\text{ʃt}o\bar{\lambda} = \text{ʃt}o = \text{d}o\bar{\lambda}i\bar{t}e:$
 シトァ シト ドァイテ。
 いた 人 だから。

T 'k'u:|ɣandan̄ kaɾadaiɣamo = ,kɔ:'ɣande 'ga:t,|tʃiri =
 クーグワンダヌ。カラダイシャモ コーグワンデ ガーッーチリ
 こんなだろ。 体なんかも こんなで がっちり

ʃtō = ʃtodarara kaoiɣawa = honton Φtsū:̄no=çtono =
 シトァ シトダララ。カオイシャワ ホントン フツノ ヒノ
 した 人でした。 顔なんかは 本当に 普通の 人の

baimo=arugur,æ: = [gant̄],gan̄kodō ,gattʃiridō = ʃtɔtɔ =
 バイモ アルグリャー ガンコドァ ガッチリドァ シトテ
 倍も あるぐらい 頑固な がっちりした 人で

ozarara. (ʔΛΛ:) obi:tō = ʒa = waiɣamo
 オジャララ。(あはー) オビートァ ジャ, ワイシャモ。
 ございました。 知っていました よ, 私たちも。

iɔya [m]a:kaguroktɔ = honton nio:samademo = miɔɣan̄
 イロガ アーカグロクテ ホントン ニオーサマデモ ミログワン
 色が 赤黒くて 本当に 仁王様でも 見るような

gandʒo:na = ʃto
 ガンジョーナ* 人……
 頑丈な 人……

* 檜立方言ではガンジョードァとなる。-ドァに代わって東京共通語の-ナが
 現れわたっている。

M [ə]waɣemo [saʔ]saipākaɾa = ki,te: ,k'ɔ,k'oni=sūmaɔ: =
 ワレモ サイパンカラ キテー ココニ スマロー
 私も サイパンから 来て ここに 住んだのを

ome:ɣa:wa = obje:ta = ka
 オメャーシャーフ オビエータ カ。
 あなたたちは 知っている か?

T ɔ: = obi:tō = ʒa
 オー オビートァ ジャ
 ええ 知ってます よ。

M \searrow \bar{o} : = $\bar{w}ai\bar{j}a$: = $\bar{k}okod\bar{e}r\bar{e}$ $\bar{w}a$: $\bar{y}a$ = $\bar{i}em\bar{o}$ = $\bar{s}annim\bar{m}o$ =
 オー ワイシャー ココダラ。 ワーガ イエモ サンニンモ
 ああ、 私たちは ここだ。 私の 家も 3人も

$\bar{k}i\bar{j}t\bar{a}r\bar{a}$: $\bar{r}a$: (Δ :) $\bar{e}n\bar{e}$ = $\bar{h}e$: $\bar{t}ai$ ' $\bar{y}a$: $\bar{e}n\bar{e}$ = $\bar{k}y\bar{u}$: $\bar{f}u$: $\bar{n}o$ =
 キタラー、 (あー) あな ヘータイガー。 あな キューシューノ
 来たっけなあ あの 兵隊が。 あの 九州の

$\bar{f}t\bar{o}d\bar{o}\bar{a}$ $\bar{f}t\bar{o}\bar{z}\bar{j}a$: $\bar{y}a$ $\bar{n}a\bar{y}anok\bar{e}n\bar{n}o$ = $\bar{f}t\bar{o}\bar{z}\bar{j}a$: $\bar{m}o$
 シトドァ シトンシャーガ、 ナガノケンノ シトンシャーモ
 人だという 人なんかが 長野県の 人なんかも

$\bar{s}annin\bar{j}$ = $\bar{k}i\bar{j}t\bar{a}r\bar{a}$ = $[o]\bar{o}n\bar{o}$ = $\bar{z}ibun$ = $\bar{d}a\bar{r}annu$: = $\bar{w}a$
 サンニン キタラ オノ ジブン ダランヌー ワ。
 3人 来た。 あの 時分 だろう。

T $\bar{s}o\bar{y}ande$ = $\bar{o}d\bar{z}arannu$: = $\bar{w}a$ = $\bar{n}o$:
 ソグワンデ オジャランヌー ワ ノー。
 さようで ございましょう よ ね。

M \bar{e} :? = $\bar{e}n\bar{e}$ = $\bar{m}a\bar{r}u\bar{b}o$ Δ : # $[\Delta]\bar{s}oid\bar{z}a$:
 あー、 あな、 マルボ…* あー ソイジャー
 ああ、 あの 死ぬ… ああ それじゃ
 *もう帰りかけているので、言いかけて打ち切る。

T \nearrow \bar{a} : $\bar{s}ora$ = $\bar{d}o$: $\bar{m}o$ $\bar{m}ata$: $\bar{k}ondo$ $\bar{c}i\bar{m}ao$ = $\bar{g}o$: $\bar{z}atte$ =
 アー。 ソラ ドーモ。 マター コンド ヒマオ ゴージャット
 ああ。 そら どうも。 また こんど お暇を みられて

$\bar{d}ze\bar{h}i$ $\bar{h}ana\bar{j}o$ = $\bar{f}t\bar{e}t\bar{a}m\bar{o}$: $\bar{n}i\bar{j}a$, \bar{e} : (……不明瞭……) \bar{a} '
 ゼヒ ハナショ シテタモーリヤレー。 アー、
 ゼひ 話を してください。 ああ、

$\bar{s}oi\bar{z}a$ = $\bar{d}o$: $\bar{m}o$ = $\bar{o}ka\bar{y}esama$, $\bar{d}e$: $\bar{d}omo$ = $\bar{d}o$: $\bar{m}o$
 ソイジャ ドーモ オカゲサマデー。 ドモ ドーモ。
 それじゃ どうも ありがとうございます。 どうも どうも。

第3章 檜立方言の音声

1. 生活語音

1) 生活語音とその具体音相

檜立の方言生活を支えるものは、あらゆる言語形式の一切である。言語形式は表現形式と言うこともできる。表現形式の外形を作り上げる素材として生活語音を認めることができる。日本の諸方言と同様に、概略、音声学でいう音節に該当する具体音相を示す単位が基本となる。この単位を生活語音と呼ぶことにする。当該の方言生活者には通常これ以上はもはや分割し得ない音声認識の単位である。生活語音は術語として長すぎるので、以下、略して語音と称する。当該方言では語音に、短語音と長語音の2種を認めることができる。

檜立の語音として以下のものが認めうる。具体音相は [] 内に示す。

イ [i]。東京共通語のイと同様。

エ [e, ie]。先行の子音を口蓋化させることが多い。語頭では、音声学的には2音節と認められる [ie] の発音をする人もあるが、通常は [ie] [ie] 程度であるか、[e] である。[ie] と発音をしていても、発音者自身は1語音と自認し、エと認めている。

ア [a]。東京共通語のアと同様。

オ [o]。東京共通語のオと同様。

オァ [oã] [oö] [oã] [o:] など2重母音（時に開いたオの長音）としての具体音相を示す。オー [o:] に極めて近く聞える場合があるが、檜立方言の話し手たちは、そういう場合でも聞きわける。オァは長語音。

ウ [u] [ü]。東京共通語のウと同様。

ヤ [ja] 東京語と同様。

ヨ [jo] //

ユ [ju] //

ヨァ [joã] など。[juã] の発音になる時もあるが、語音としてはヨァと認められる。

ワ [wa]。[w] 音が弱い場合があり [a] に近く聞える場合がある。特

に助詞ワ [wa] の [w] が弱いか落ちる場合がある。

ヒ [çi] [hi]。[ç] は弱い場合が多い。

ヘ [he]。

ハ [ha]。語頭で無声子音の前にあると [xə] [x˙] となることがある。

ホ [ho]。

ホァ [hoǎ] [hoǒ] [hoǎ̃] など。

フ [ɸu]。

ヒャ [ça]。

ヒョ [ço]。

ヒュ [çu]。

ギ [gi] [yi]。語中では [yi] が多い。ごく稀に [ŋ] 音の後に [ŋi] を聞く。

ゲ [ge] [ye]。語中では [ye] が多い。

ガ [ga] [ya]。

ゴ [go] [yo]。

ゴァ [goǎ] [yoǎ] など。

グ [gu] [yu]。

グァ [gǎ] [yǎ] [gǒa] [yǒa]。

ギャ [gja] [yja]。

ギョ [gjo] [yjo]。

ギュ [gju] [yju]。

キ [ki]。

ビ [bi]。

ピ [pi]。

ケ [ke]。

ベ [be]。

ペ [pe]。

カ [ka]。

バ [ba]。

パ [pa]。

コ [ko]。稀に [qo]。

ボ [bo]。

ポ [po]。

コァ [koǎ] など。

ボァ [boǎ] など。

ポァ [poǎ] など。

ク [ku]。

ブ [bu]。

プ [pu]。

クァ [kǎ] [kǒa]。

ビャ [bjæ]。

ピャ [pjæ]。

キャ [kja]。

ビョ [bjɔ]。

ピョ [pjɔ]。

キョ [kjo]。

ビュ [bjɯ]。

ピュ [pjɯ]。

キュ [kju]。

デ [de]。	テ [te]。
ダ [da]。	タ [ta]。
ド [do]。	ト [to]。
ドァ [doǎ] など。	トァ [toǎ] など。

ジ [dʒi] [ʒi]。	シ [ʃi]。
ジャ [dʒa] [ʒa]。	シャ [ʃa]。
ジョ [dʒo] [ʒo]。	ショ [ʃo]。
ジョァ [dʒoǎ] [ʒoǎ] など。	ショァ [ʃoǎ] など
ジュ [dʒu] [ʒu]。	シュ [ʃu]。

チ [tʃi]。稀に [ti]。例えば、オジャルッチーヤ《おいでになるそうだ》
が [-tti:] [-tiɛː] のように発音されることもある。

チャ [tʃa]。
 チョ [tʃo]。
 チョァ [tʃoǎ] など。
 チュ [tʃu]。

ゼ [dze] [ze]。
 ザ [dza] [za]。
 ゾ [dzo] [zo]。
 ゾァ [dzoǎ] [zoǎ] など。
 ズ [dzú] [zú]。ごく稀に [du]：例えば、ズグワン《どんなに》は
 [dzúŋaŋ] [dzúŋaŋ] とともに [duŋaŋ] [duŋaŋ] とともに発音される。

ツァ [tsa]。例は少い。ブツァガル [buttsaŋarw] 《ぶっ下る》。
 ツ [tsú]。

セ [se]。[fe] 老年層に聞かれる。ソァ [soǎ] など。
 サ [sa]。ス [sú]。
 ソ [so]。スァ [s̥a] [s̥o]。
 リ [ri] [ri]。[r] は軽打音。[ɹ] は無摩擦継続音。

レ [re] [ɾe] [ɾje] [ɾje]。

ラ [ra] [ɾa]。

ロ ヲ [roɰ̃] [ɾoɰ̃] など。

ル [ɾu] [ɾu]。

リ ャ [ɾja] [ɾja]。

リ ョ [ɾjo] [ɾjo]

リ ュ [ɾju] [ɾju]。

ミ [mi]。

ニ [ni]。

メ [me] [mje]。

ネ [ne] [nje]。

マ [ma]。

ナ [na]。

モ [mo]。

ノ [no]。

モ ヲ [moɰ̃] など。

ノ ヲ [noɰ̃] など。

ム [mu]。

ヌ [nu]。

ム ヲ [ma] [mɔ̃a]。

ニ ャ [nja]。

ミ ャ [mjæ]。

ニ ョ [njo]。

ミ ョ [mjo]。

ニ ュ [nju]。

ミ ョ ヲ [mjoɰ̃] など。

ミ ュ [mju]。

ン 後続音の影響でさまざまな鼻子音・鼻母音となって現われる。あいづち音として [m] [ũ] [ɛ̃] などとして用いられることが多いが、その場合は生活語音（語音）でなく、準生活語音（準語音）に属するものとする。

ッ 後続音の影響でさまざまな有声／無声・閉鎖／摩擦の内破的音としての具体音相を示す。

各語音は、引きのばすことができる。檜立の話者たちは、このことをナガメルと言っている。例えば、語音カはナガメルとカーとなる。音声学的には引き伸ばされたのは、[ka] の [a] であるが、話者たちはそのように受けとらず、カそのものがナガメラれたと受けとる。これは当該の方言の話し手に限らず日本の諸方言にも共通するところであろう。

本来、長語音であるオァ、コァ、ノァなど二重母音の具体音相を示す語音とン及びッを除き各短語音は対応の長語音を持つ。除外した3種の語音

も具体音相として引き伸ばされることはあるが、この場合の引き伸ばしはイントネーションやプロミネンスの具体実現相の一つとしてとらえるべき現象とするのが妥当であろう。

長語音は音声学的には、対応の短語音の有する母音を長母音とすることによって得られるが、一つの例外がある。それは[e]を有する短語音に対応する長語音の場合である。例えば、レに対するレーは[riɛ̃] [riɛ̃]などとなる。ただし、これは老人層の場合であり、高年層以下になると[riɛ̃] [riɛ̃]の発音はほとんど聞かれず、[ri:]となっている。即ち完全にりに対応する長語音リーとなってしまうている。

2) 具体音相に見られる母音の無声化と脱落

「八丈島の言語調査」(国立国語研究所, 昭和25年発行, P. 125)によれば、榎立方言は、他の八丈島方言の話者たちに、①ていねい・純朴, ②昔の言葉を使っている, ③独特のことば, ④全然ちがう, ⑤早口, ⑥舌切れ, ⑦ズーズー弁, ⑧聞きづらい, ⑨うるさい・荒い・強い聞きづらい, と評されている。また榎立の人たちは[k'aʃtatewa: tʃo̞k̚ki:ni tʃo̞k̚ki:ni do̞deno̞]カシタテワー チョッキリ チョッキリ ドァデ ノァ。《榎立はチョッキリ, チョッキリなんでね》(女・明後, 他)と自評している。この自評と一致する前掲の他評は⑤⑥⑧⑨となろう。筆者はこのような自他一致した批評(方言特徴に対する意識)は、榎立方言の特異な(程度の進んだ)母音無声化(しばしば強い出気 aspiration を伴う)ないし母音脱落に帰せられるとした(『八丈島榎立方言の母音の無声化と脱落』[「音声学会会報」第163号, 1980年3月]参照)。次に掲げる表は、第2章のMT会話中、東京語でもふつう、それぞれの母音に関し無声化ないし母音脱落が起こりうる音声環境を除いて、すべての無声化母音と母音脱落の出現した音声環境及び母音別出現回数を示したものである。

この表より、次のことがわかる。音声環境[t-k]において最も多く、[e, o, a]あわせて27回。ついで[h/x-k] 19回, [k-t] 17回, [k-ts] 16回, [k-k] 14回, [t-t] 14回, [k-f] 6回, [s-k] 6回, [t-s] 5回, [h/x-tf] 5回, [tʃ-k] 2回, [s-ts] 2回, [k-tʃ] [k-k̚] [t-h/x] [t-f] [t-ts] [s-t] [f-t] [f-tʃ] においてそれぞれ1回現われている。以上の音声環境では、東京語と同じく榎立以外の八丈方言においても

母音無声化の音声環境と母音別出現回数

直前音 直後音	k	t	h/x	s	ʃ	tʃ	g	r/ɾ	i
k	e 3 a 5 o 6	e 3 a 4 o 20	e 1 a 11 o 7	o 6		o 2			
t	a 5 o 12	e 4 a 2 o 8		o 1	a 1		a 1		i 1
h/x		e 1							
s		e 3 a 2							
ʃ	e 6	a 1							
ts	a 3 o 13	e 1		a 2					
tʃ	a 1		a 5		o 1				
k̤	a 1								
g/ɣ	u 1	e 1			i 1				
ɣ̤	o 1	o 1							
d		o 1							
dʒ/ʒ	u 1					i 1			
ɾ	i 2								
m		o 1				i 1		o̤ 1	
n	i 2 u 1			o 1					
i			i 1						
o		e 1							

[表の見方] 例えば, [k-k] (直前音 [k], 直後音 [k]) という音声環境では, [e] が 3 回, [a] が 5 回, [o] が 6 回出現したことを示す。

[注] 母音脱落の例は僅少なので, 該当の母音の無声化されたものに含めて数えている。

[i, u] の狭母音の無声化ないし脱落が見られるのは普通であるが、樫立方言では [e, a, o] の半狭母音ないし広母音においても無声化ないし脱落がしばしば起こっている。また、東京語と同じく、樫立以外の八丈方言においては、直前か直後に有声音が存在する音声環境では、母音の無声化は通常まず起こり得ないと考えてよいが、樫立方言では [k—n] [g—t] [t—d] [tj—m] 等々の音声環境でも、母音の無声化が起こり得るのである。

3) 話者による語音表記の一例

樫立方言は言うまでもなく話し言葉であるから、それを日常生活において書き表す必要はない。したがって、いざそれを話者たちが書こうとすると、色々の苦心が払われるのである。筆者が、当時、老人会の会長であった伊勢崎頼母氏から頂戴した手紙の余白に記されていた島ことばはこうであった。

コギエタソジャ カラダウ キョツケヤレヨイ ナカヨクシヤレヨイ
アバヨイ ノウオジャレヨイ マチイタソイテ

これを筆者の片仮名表記・音声表記・共通語訳を示せば次のようであろうかと思う。

コギエタソ*₁ジャ。カラドァ キョツケヤレ ヨーイ。ナカヨク
シヤレ ヨーイ。ノー オジャレ ヨーイ。マチータソイ₁テ₁。
koɣiɛtaso₁dʒa kaɾadoãkiotskejaɛ₁jo:i nakajokuwɕijare₁jo:i
'no:odʒaɛ₁jo:i matɕi:taso₁te:

* 小宮山才次氏（明治36年生まれ。樫立に生まれ育ち、青年期より三根に移住。元八丈町教育長。以下K. S.氏と略称）によると、氏の樫立在住中はコギエはコゲーであったという。

お寒うございますね。体をお気をつけくださいよ。[夫婦]仲良くしてくださいよ。またおいでくださいよ。お待ちいたしておりますから。

伊勢崎氏の苦心は、ギエ [ɣiɛ] をゲイ、ドァ [doã] をダウとしていることに表れていると思う。

2. アクセント

第2章のMT会話の中から、イントネーション及びプロミネンスの影響を受けていないと判断され、しかも、より大きないわゆる準アクセント節

に含まれていないと見なし得る2拍のアクセント節について7つを抽出し、高低配置頻度について検討を加えてみよう。

		M	T	計
《まだ》	マダ	3	6	9
	マダ	0	0	0
《もう》	ハラ	1	2	3
	ハラ	2	1	3
《ここ》	ココ	9	4	13
	ココ	0	0	0
《あそこ》	ウク	5	1	6
	ウク	0	1	1
《私が》	ワガ	1	0	1
	ワガ	1	2	3
《まあ》(間埋詞)	マー, マー	0	0	0
	マー	3	1	4
《ぜひ》	ゼヒ	0	4	4
	ゼヒ	0	1	1

上表を見てわかるように、各形式が全く何らの一定傾向もなく発せられるのではなく、各形式は、(1)〇〇の頻度の高いもの、(2)〇〇の頻度の高いもの、(3)両者の頻度がほぼあいなかばしているもの、の3種になる。すなわち、(1)には、マダ、ココ、ウク、ゼヒ、(2)にはワガ、マー、(3)にはハラが属することになる。

いわゆる“崩壊一型”とか“無アクセント”といわれる八丈語についても、上記のような傾向に目を向けることが必要であろう。このような傾向を知るために、自然会話資料であっても高低関係を表記しておくことは意義のあることであろう。こういう明確とは言えぬがおぼろげながら存在している傾向が、やがて“有アクセント”へと発展していく萌芽ではないであろうか。

1973年樫立を初めて訪れた折に、当時高校3年生であった伊勢崎民子さんにアクセントに関連して、内観による考察をして貰ったことがある。筆者が民子さんの名前を色々な高低配置で数回ずつ言い、それぞれの発音について、不自然か不自然でないか、どんな時にそう言われるかなどを答え

でもらったのである。結果は次の通りであった。

- ① タミコ 別におかしくない。一番ふつう。
- ② タミコ 別におかしくない。一番ふつう。
- ③ タミコ おかしい。この言い方はない。
- ④ タミコ 別におかしくない。ふだんこう呼ばれている。
- ⑤ タミコ 別におかしくない。一番ふつう。
- ⑥ タミコー 父に叱られる時。あとヘソコエ スワレ とつくどび
ったり。
- ⑦ タミコー お母さんが「御飯だよ」と呼ぶ時のようだ。
- ⑧ タミコー 大きい声で呼ぶ時。

このことから次のことが言える。

- (1) 決定版とも言うべき自己のアクセント型を持っていない。
- (2) 高低差の著しいアクセントには抵抗を感じず。
- (3) イントネーションとしての高低関係はかなりよく理解できる。

3. イントネーション

1) 文末イントネーション

イントネーションが豊かに展開するのは文末部においてである。樞立方言においては、概略次の11種の文末イントネーションを認めることができる。

a. 文末平板普通型

文末部が特に高調になったり低調になったり、強められたり、長められたりすることのないもので、おちついた、おだやかな心持ちを表現する。

オクサーン。オメヤーガ ソグァンドァコトァ シチクテ ヨテダラ。

奥さん。あなたがそんなことをしないでいいのですよ。(男・明後→筆者の妻。老人会の宴の終り頃、片付の手伝いをし始めたら。これは、たしなめる調子でなく、そんなに気を使ってもらってという気持も多少はたらいっている)

シンピャー シタレドーニ*、ネツモ サガッタシ、ハラ シンピャーワ
インニャー。

心配したけれども、熱も下ったし、もう心配はいらないよ。(男・昭

初→筆者に。子供に言う場合の例として)

*「シタレドローニは、老年層ではシタレドローモという」(K. S.氏)。

オカゲサマ。

お蔭様。(店でよく聞かれる。買物を済ませた客が店の人に。「じゃ、どうも」ぐらいの軽い社交表現の一つである。

b. 文末下降普通型

文末部において下降があるが、文末の語音が長められたり、強勢が加わることがない。特にとりたてていう感情の動きを表現するものではない。

タマオサン。

たまをさん。(男・明後→女・明中。すぐ近くにいて会話中に呼びかける)

ソグァンドァダラ。

そうなんだ。(女・明中→男・明後。自分の言ったことを、軽く再確認したもの)

レーゾーコイ イレテ オコワ。

冷蔵庫へ入れておくよ。(女・明中→女・昭初。鮮魚を預ってくれと頼まれて気さくに応ずる)

c. 文末高調引伸型

文末部の最後の語音を高調で引き伸ばす。引き伸ばされた語音の最後にイ [i] が添えられることもある。人の家を尋ねる時、別れのあいさつ、など社交表現においてよく用いられる。親愛の情・愛惜の念が示されるようである。

オジャリ ヤロ カー。

おいでですか。(人の家を訪ねた時のあいさつ)

アバヨーイ。ヒッカスルナ ヨーイ。

さようなら。[私のことを] 忘れないでね。(長の別れのあいさつ)

イコグァーン。[ikogaā:]

行きましょう。(相手をさそう気持が強い時に用いられる。あっさり「行こう」という時は、イコグァン。またはイコグァン。となる)

d. 文末高調引伸上昇型

文末高調引伸型と似ているが、終末部に上昇調が加えられる。ひどく感心した時のイントネーションである。

ハツオンガ ジョーズドァ コトー。

発音が上手なこと。(女・明中→筆者。筆者の楕立言葉の発音が上手だとほめる)

オミャーワ ジョーズニ ジャーキ ヤルー。

あなたは上手にしゃべりますこと。(女・明後→筆者。筆者の楕立言葉をほめる)

e. 文末低上昇型

文末の最後の低調の語音を上昇させる型である。この場合、その語音は引き伸ばされる。上昇と引き伸ばしの程度は、話者の訴えかけ・応諾・同情などの気持の程度に左右される。

ヨケ ガー。

いいですとも。(女・明中→筆者。筆者が「島言葉を教えてください」と頼んだ時の応諾のことば)

ネジ ソグランドァ モノワ ナッキャ ノァ。

デンチ バッカリデ ノァ。

ねじ、そんなものはないね。〔今は〕電池〔の時計〕ばかりでね。(女・大→男・昭初。農協売店で、職員に、ねじ時計のねじについて話している。前文で訴えかけ、後文でしめくくっている連文構造を示している。後文のノァが下降調をとっていて、前文のノァの上昇調と対照的である)

ソグワンジャー マダ アカンボーデカンニャー。

そんなじゃ、まだ赤ん坊じゃないか。(男・大→筆者。筆者が、イクツニ ナリ ヤロ、オメャーワ。《何歳になりますか、あなたは》と尋ねられ、ヨンジューキューニ ナロ ワ。《49才になります》と答えたのに対し、からかって言う)

ハラガ ヘッタノニ。

腹がへったのに〔気の毒にまあ〕。(女・明中→筆者夫婦。筆者らが辞去しようとした時に、昼食も出さずにいたことを大変に申し訳なげって言う。筆者の妻にも言う気持が働いて共通語的のノニが出たものと思われる)

f. 文末高上昇型

文末より2番目の語音 (penultimate) の音調が高で、次の最終の語音

(ultimate) から上昇調となる型である。eの文末低上昇型と表現機能が似ているが、高調より上昇が始まるため、訴えの気持が強く出て、相手にあいづちを打たせるとか、応答をさせることが多くなる。従って疑問音調としても使える。

クサ[↑]フ ナ[↑]ッカ ド[↑]ァイテ ノ[↑]ァ。

草の中だからね。(M→T。「お骨を発見したのは、雑草の生い茂った中だったよ。大変なところだったよ」と共感を求める)

ア[↑]ッデ ス[↑]ッ[↑]ン イ[↑]ツマデモ ネ[↑]テアロー。

何でそういつまでも寝ているの。(女・明中→筆者。文例として挙げたもの)

なお、このイントネーションは軽いいなすような応答にも用いられる。次のやりとりの応答にその気持が表現されている。

A: シ[↑]ッカリ オ[↑]リ ヤ[↑]ッタ。

B: オ[↑]ビ[↑]ャ。

A: オ[↑]ー[↑]。

B: ジ[↑]ッポ[↑]ン[↑]ー。

A: たくさん織られました?

B: 帯は [たくさん織ったよ]。

A: へえ。

B: 十本 [織ったよ]。

(Aは女・明後, Bは女・明中)

g. 文末ステップ式特昇型

文末部の最終語音が特にステップ式に(階段を一段登るように)通常の高調よりさらに一段階上の高さになるものである。上がって平坦の音調のものと、それに更に上昇調が加えられるものとある。後者は、驚きとか、強い訴えとがこめられた場合である。ステップ式特昇型は疑問音調としてよく用いられる。

ア[↑]ニョ サ[↑]ガシ ヤ。

何を探しているの? (女・明中→筆者。筆者が電気ごたつのプラグを持って、コンセントを探している時に言う)

A: オ[↑]メ[↑]ャー ヨ[↑]バ[↑]ッテ ミ[↑]タ[↑]ラ[↑]サー, オ[↑]メ[↑]ャーガ オ[↑]ジャン[↑]ジャ[↑]ロア

↓
ジャー。

B: ガンヅツニ ヤー。

A: トメテダラ ヨ。

A: あなたを呼んで見たらさあ、あなたが〔家に〕いらっしゃらなかったよ。

B: 元日にかい?

A: 朝早くだよ。

(Aは女・明後, Bは女・明中。元日なら自分は家に居たはずな

のに, という驚きと訝かる気持がヤーにこめられている)

チョット ミセテ タモレ。

ちょっと見せてください。(女・大→女・昭中。農協のカウンターで職員に自分の預金台帳を見せてくれと頼む。ステップ式特昇が気さくに頼む気持をも表わしている)

シューセンチョコクゴ。 センソーガ オワッテ スグ。

〔あなたがお骨を発見したのは〕終戦直後〔でしたか〕? 戦争が終つてすぐ〔でしたか〕?。〔T→M。棒読みのような平板高音調が続き文末の語音をステップ状に特昇する, このイントネーションは高年層以下に特によく聞かれる疑問音調である)〕

h. 文末ステップ式普通上昇型

文末部の最終語音を, 先行する低音調よりステップ状に高音調にする型である。gのステップ式特昇型よりはおだやかな驚き, 訝りなどを示す。ごく普通の疑問音調である。ステップ状に高音調になってから上昇音調が加わる場合があるが, これは訴える気持をさらに加味する。

オジャルノワ ショーガツウ イチガツ カ ニガツゴロ オジャンナイ
カ ノア。

おいでになるのは, 正月, 1月か2月ごろでございませんかね。(T→M)

オミワ イツ ヲツ。

お前はいつ行く? (女・明中→男・昭初。母親が息子にいつ東京へ行くのかと尋ねている)

ムコー ミレバ ワカリヤ ソ ガ。

向こう〔の台帳を〕見ればわかりはするが。(女・大→女・昭中。農協のカウンターで、自分がすでに購入した生糸の本数と金額は、農協の台帳を見ればわかるのだが、と依頼の気持ちこめられている)

i. 文末ステップ式降昇型

文末より第3番目の語音 (antepenultimate) が高調、次の語音 (penultimate) が低調、最終の語音 (ultimate) が高調という型である。これは、軽やかな、こだわりのない、気さくな気持、または軽い非難の気持が加味された判叙文に用いられる。

キエー フレグチガ フレテ キタ ヨ。 トシヨリガ フレルカラ。

今日、〔老人会の〕連絡係が知らせて来たよ。年寄りが知らせてまわるから。(女・明中→筆者)

ハナガ ハ カリエテ オテタラ。

花がもう枯れて落ちた。(女・明中→筆者)

オシメ アラウ コトモ デコズ、ヤクザダラ、ソフ ヨメワ。

おしめを洗うことも出来ず、役に立たない人だ、その嫁は。(女・明中→女・明後)

j. 文末下降型

文末部又は文中の句・節の最後の語音に特高調、高調または普通調から下降調をとらせる型である。断定・主張・同意要求の訴えかけ(あいづちを要求する気持)・驚き等を表現する。下降の開始音調が高ければ高いほど、加えられた強勢が強ければ強いほど。断定・主張・訴えの力は強まる。語音は引き伸ばされる。

'ワーガ 'イエモ 'サンニンモ 'キタラ'ラー。

(A:〔聞いてのあいづち〕) ヘータイ'ガー。

私の家にも三人も来たっけなあ。兵隊が。(M→T。「よそのうちにも来たが、私の家にも来たんだよ」と断言主張し、相手の同意を求めている。そしてさらに、「兵隊がだよ」と追い討ちをかけるように補足する)

'マニャー スグワンデ ブックズレテ ナッケガ 'サー。[ã:]

ソントキニャ キヤマノ ナッカ ダラ'ラー。

今は、そんなに、〔そこの切替畑は〕崩れて、なくなっているがさ。

その時には草山の中だった。(M→T)

ロクマクー。

[病気は] 肋膜炎 [炎だったの]。(女・明中→女・明後。これは、ある人の病気が肋膜炎であったということを相手の発言で初めて知った時に発せられたもの)

k. 上昇下降型

文末の語音が上昇し特昇調に達したのち、僅かに下降する。文末語音は引き伸ばされ、強勢もいくらか加えられる。心からの感謝の気持を表している。次の一例を得た。

アー。 ツリャ オカゲサマデ。 ホントー。

ああ。それはお蔭様で。本当に。(T→M)

2) 文頭イントネーション

文頭の語の第1語音を低調で引き伸ばす。その引き伸ばされた部分にやや強勢の加えられることもある。これは、常にとは言えないが非難・軽蔑・自蔑・無念、なげやりの気持などを抱いて、文を言い始めようとする時に起こりやすいようである。該当部に下線を施して表記する。

オーンナガ シチニンモ ハチニンモ アスッデ アロ ワー。

女 [ともあろうもの] が7人も8人も [集っておしゃべりして] 遊んでいる。(女・明中→筆者。檉立では女は織物でいそがしいから遊んでいる人など1人もいないのに、〇〇地区では女が無駄話をしていると言って檉立女性の勤勉さと対比している)

3) 間投詞のイントネーション

間投詞には応答語と感声語が含まれる。間投詞のイントネーションとしては、下降・上昇・平板・昇降の4型を認めることができる。

下降型 オー↘。 はい・ええ・そうです・そうしましょう、等

アウ。 うるさい! しつこい! 等

オーソ。 違う・いいえ、等

上昇型 ↑
ヤ。 ええ・何て言ったの

オーー↑。 ほう・そうかい

オー↑。 ああ・そうだよ

平板型 オーア。それはまあ (驚き)
ワ。 わあ (驚き)
 昇降型 オー。 ほほう (感心した時など)

4. プロミネンス

極立方言においてプロミネンスは、大別して次の3種となる。

a. 語音の高調での引き伸ばし

プロミネンスを受ける語の1語音(第1語音か第2語音の場合が多い)を高調で引き伸ばす。強勢も加わることが多い。引き伸ばしが長ければそれだけ強いプロミネンスが加えられたことになる。

ウ[↑]スデ コズイ、テ[↑] トンガラシ[↑]ヨニ マーゼテ ク[↑]ンシテ タベタ[↑]
 カト オモ[↑]、ムカ[↑]ーシノ ヒトワ。

白でこづいて、とうがらしに混ぜて、こうして食べたかと思う。昔の人は。(女・明中→筆者。昔、チンピと言って蜜柑の皮を食料として食べた話をしている。ムカシにプロミネンスが与えられている。[ka:]と無声化母音で延長されているので一層際立って聞える)

ソント[↑]キノ コ[↑]トア ワレヨリ ホカニ[↑]ャー 'ダーレモ 'ミ[↑]ンナ
 ナッケ ジャ。

その時のことを[知っている人]は、私の外には誰もみんなないよ。
 (M→T。ダレとミンナにプロミネンスが与えられている)

b. 語音の低調での引き伸ばし

プロミネンスを受ける語の第1語音を低調で引き伸ばす。やや強勢が加わることもある。したがって、前述の文頭イントネーションが特定語詞にプロミネンス的にかけられたものとしてもよい。しかしここでは、特定語詞が卓立されるという点を重視し、プロミネンスとしてとり扱う。すなわち文頭イントネーションの場合と同様の感情を伴っての特定語詞の強調を、このタイプのプロミネンスの機能と考えておく。表記も文頭イントネーションに準じて、該当部に下線を施すことによる。

ダレダカ ワカリノ[↑]ート ワークノ ナミ[↑]ャーデ ワカル ワ[↑]ケー。

〔糸繰りを頼みに来たのが〕誰だかわからないと、〔糸枠に記されている名前を見て〕わかる訳。(女・明中→筆者)

ワー, ワー, ワー。キビガワリー。コリエー ワーガラ モッテ
ワシテ タバウ カ。

まあまあああ、大変だ。これを私のために持って来てくれたの。

(女・明中→子供。よその子供が親の代りに届けものに来た時。今の
子供にはこのようには言わないようだが、昔を思い出しての語り)

c. 促音と撥音の引き伸ばし

プロミネンスを受ける語の促音または撥音を引き伸ばす。通常強勢も加わる。aタイプ的一种と見てもよい。

カラダイシャーモ コーグワンデ 'ガーッテリ シトァ シトダララ。
体なんかもこんなで、がっちりとした人でした。(T→M。ガッチリ
のガが伸ばされ、さらにっも伸ばされ、すなわち [ga:t:tʃiri] となっ
て強調されている)

アフ プタイワ 'ゼンブ ホッカイドーノ シトデ オジャロイテー。
あの部隊は全部北海道の人でいらっしやるから。(T→M。「一人残ら
ず全部」という強調)

5. 準生活語音

樞立方言の音声生活の基盤をなすものは、生活語音である。それに現実の会話の場において、生気を与えるのが、アクセントであり、イントネーションであり、プロミネンスである。しかし、これだけで、現実の場での会話が円滑に行われるのではなく、生活語音ではおきかえられない音声の存在が必要となる。これは、相槌音、聞き返し音、間埋め音などとして認められる。

a. 相槌音

会話において相槌は、話し手に話す意欲を持続させる効用を持つ。話し手も聞き手に、相槌を意識的・無意識的に要求しているものである。樞立方言においては、文中の句末や文末でしばしば強勢を伴う下降調、時に上昇調によって、相槌を求めている。これに対して聞き手は当然ながら応えてやらねばならない。相槌請求の合図がなくても、聞き上手は相槌を適時発する。うなずくという動作と同時に発せられる場合も多い。もちろん、オー、ハッハーと明瞭な生活語音が相槌に現われることもある。しかし、常にこのような語音で相槌を打たれても、話し手は話しぶり。そこで次

のような、語音に相当しない準生活語音（準語音）が登場する。

[Λ:, e:, ə:, σ:, hΛ, hɐ, hə, fΛ, fɐ, fə, fσ, ?Λ:, ?e:, ?ə:, ?σ, ̄Λ, ̄e:, ̄ə:, ̄σ:, f̄Λ:, f̄ə:, ?̄Λ:, ?̄ə:, m:] 等。

そしてこれらには、前述の間投詞のイントネーションが与えられ、聞き手の微妙な心理を話し手に示しているのである。話し手はこの聞き手から送られてくる合図によってフィードバックされている。したがって自然会話の分析において相槌音を無視したり、イントネーションを付せずになどと表記することは妥当とは言えない。

必要に応じ、相槌音は次のように平仮名で表記することにする。

あー [Λ:, e:, ə:, σ:, ?Λ:, ?e:, ?ə:, ?σ:]

はー [hΛ:, hɐ:, hə:, hσ:, fΛ:, fɐ:, fə:, fσ:] など。

んー [̄Λ:, ̄e:, ̄ə:, ̄σ:, f̄Λ:, f̄ə:, ?̄Λ, ?̄e, m:] など。

b. 間埋め音

間埋めは、話者の話し続ける意志の表示として聞き手を緊張状態におく効用がある。この間埋め表示には、樫立方言では、生活語音でなる間埋め詞ソノ、ソノー、コノ、コノー、アノ、アノー、マー、オイドァ、ソイカラ、ソイデ、等）を用いることができる。しかしこれらの間埋め詞は、それら自体に具体的な表現内容を有せず、単に、話し手が次の言葉を探している、次の言葉を発するべく思考中であることを表現しうれば十分なものである。したがって間埋め詞は、その有する語音の全部或いは一部を準語音へ変えることが多い。例えば次の通りである。

ソノ → [sənō] → [ənō]

アノ → [ənō] → [ənō]

コノ → [kənō] → [ənō]

ソイカラ → [səkərā] → [əkərā]

このように [ənō] の段階になると、もはやどの間埋め詞に相当するか（即ち出自）は決めがたい。むしろ [ə] 音を準生活語音としてそのまま受けとり、表記の際も平仮名を用いて生活語音との別を明らかにしておく方が望ましい。以下に、自然会話において観察し得た、準語音のみ、あるいは一部に準語音を含む間埋め音を若干挙げておく。

[ənō] あヌ

[ənō] あな

[kənō] かな

[əkərā] あから

[əno:] あ／ー

[ə] あ

[əu?] あ／う[səne] さ／な[e:ʔ] あ／ー